

圖 信 義 系

2010年度

講 義 計 画

桃山学院大学

回

十

義

講

科目名 クラス 講義区分	
社会科・地理歴史教育法 01<通期>	
山崎 充彦	4単位

【講義概要】

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、担当者の講義及び、「模擬授業を中心とした演習形式」とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じてであろう。その点、留意の上、登録履修されたい。

授業の構成は以下の3点である。

1. 中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について。(講義)
2. 教科の特色をふまえた指導法について。(講義)
3. 実際に学生が授業指導案を作成し、それにもとづいて模擬授業を実践し、討論を行う。(演習)

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいとは思いますが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

【学習目標】

この授業は、担当者の講義と、受講生の模擬授業とを併せた構成とする。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、模擬授業を行ってもらう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料(教科書その他のコピーなど)を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。
＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。
5. 出席者は、模擬授業についてのレポートを当日ないし翌週に提出する。

【講義計画】

- 第1回 はじめに ー授業運営の方針説明
- 第2回 模擬授業についての具体的な説明、模擬授業担当日程の割り振りなど
- 第3回 教育関係のビデオ上映および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-1)
- 第4回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-2)
- 第5回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-3)
- 第6回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-4)
- 第7回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-5)
- 第8回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-6)
- 第9回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-7)
- 第10回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」

- の教科内容・教材および授業編成の方法について-8)
- 第11回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-9)
- 第12回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-10)
- 第13回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-11)
- 第14回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-12)
- 第15回 模擬授業および講義(中学校「社会科」、高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法について-13)
- 第16回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-1)
- 第17回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-2)
- 第18回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-3)
- 第19回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-4)
- 第20回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-5)
- 第21回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-6)
- 第22回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-7)
- 第23回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-8)
- 第24回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-9)
- 第25回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-10)
- 第26回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-11)
- 第27回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-12)
- 第28回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-13)
- 第29回 模擬授業および講義(教科の特色をふまえた指導法について-14)
- 第30回 まとめ-1年間の総括

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50% 出席 50%
成績評価は、模擬授業・レポート・出席回数で、総合的に評価する。

なお、模擬授業担当日に、正当な理由なく、無断欠席した者は、その時点で、「不可」と判定する。

【教科書】

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版テキストについては最初の講義の際に指示する。

【備考】

【準備学習の指示】模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。「100の事項を調べて、授業では1つ言う」というような心構えで授業準備すること。

さ
行

科目名	クラス	講義区分
社会科・地理歴史科教育法 02<通期>		
野 尻 亘	4単位	

【講義概要】

- ①教育課程の意義と編成方法：生きる力を育てる学力を如何に達成するのか。そのために教育課程を如何に編成するのか。その基礎基本を修得する。
 ②中学社会科と高校地理歴史科の教育法：これらの教科教育の計画、内容と方法に関する基礎基本を修得する。

【学習目標】

中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教科内容・教材および授業編成の方法および、教科の特色をふまえた指導法について講義するとともに、実際に学生が授業指導案を作成し、それにもとづいて模擬授業を実践する。また、それらを参観した学生全員で討論を行う。

【講義計画】

- 第1回 生きる力と新学力観
- 第2回 教育課程の意義と編成方法
- 第3回 学校における教科教育
- 第4回 社会科の目標
- 第5回 社会科の目標における公民的資質とは何か
- 第6回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第7回 社会科地理的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第8回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第9回 社会科歴史的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第10回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容(1)
- 第11回 社会科公民的分野のカリキュラム構成と内容(2)
- 第12回 地理歴史科の目標
- 第13回 高校地理のカリキュラム構成と内容(1)
- 第14回 高校地理のカリキュラム構成と内容(2)
- 第15回 高校日本史のカリキュラム構成と内容(1)
- 第16回 高校日本史のカリキュラム構成と内容(2)
- 第17回 高校世界史のカリキュラム構成と内容(1)
- 第18回 高校世界史のカリキュラム構成と内容(2)
- 第19回 授業の構成(1)
- 第20回 授業の構成(2)
- 第21回 授業指導方法(1)
- 第22回 授業指導方法(2)
- 第23回 授業指導案の作成(1)
- 第24回 授業指導案の作成(2)
- 第25回 模擬授業の実践と講評反省会(1)
- 第26回 模擬授業の実践と講評反省会(2)
- 第27回 成績評価の方法
- 第28回 社会科・地理歴史科と人権学習
- 第29回 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育の課題
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 100%
 指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートとして提出すること。またこの提出した指導案をもとに履修者全員が授業時間中に模擬授業を行うこと。これらの平常点でもって、成績を評価し、単位認定の条件とする。

【教科書】

文部科学省 中学校学習指導要領解説 社会編 日本文教出版
 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 実教出版

【参考文献】

井原政純『社会科・地理歴史科・公民科基礎論』多賀出版
 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書

【備考】

授業の予習・復習として、高校世界史・日本史・地理の難解なレベルの参考書を必読し、問題集を解いて、教員採用試験受験にのぞんでください。特に高校で選択できなかった未履修の科目について、十分な採用試験対策を行ってください。

科目名	クラス	講義区分
社会学科基礎演習 [2]		
巖 田 圭 介 岩 倉 季 考 大 北 川 久 北 川 紀 久 北 川 紀 男 篠 原 千 佳 篠 原 千 佳 清 水 由 文 清 水 由 文 上 野 淳 子 村 松 あ ね 松 俊 俊 二	01 <春> 02 <春> 03 <春> 04 <春> 05 <春> 06 <春> 07 <春> 08 <春> 09 <春> 10 <春> 11 <春> 12 <春> 13 <春>	2単位

【講義概要】

この科目は、これから社会学科で学んでいこうとする一回生のために開かれる、少人数クラスのゼミナールです。
 大学で「学ぶこと」は、高校までの「勉強」とは違います。一言で言えば、大学では、主体的、能動的に学ぶ必要が格段に強化されます。そこでこの演習では、皆さんが社会学科で学んでいくにあたって身につけてほしいさまざまな力を豊かにするために、“見る・読む・聞く・考える・書く・話す”の基礎的トレーニングを意識的におこないます。

【学習目標】

- <学習目標>
1. <テーマの発見>：社会的現実に関心を持ち、現実の中に問題を発見する力をつけよう。
 2. <情報収集>：必要な情報を探し収集する方法を学ぼう。単行本、雑誌、新聞などの活字メディアだけでなく、映像・音声メディア、さらには現場、現地における参与観察、インタビューやインターネットなど使って、効率よく情報を探索し、入手する方法を学ぼう。
 3. <情報解説>：収集された多種多様な情報を解説しよう。本、新聞・雑誌、映像・音声メディアなどから収集した情報の正確な見方、読み方、聞き方を中心に観察の仕方、体験の反省の仕方について学ぼう。
 4. <現実の再構成>：解説された情報を使って、社会がどのような諸要素や諸次元から成り立っているか、論理的に考え、再構成してみよう。さまざまなテーマに関するレジュメやレポートを書き、添削指導をうけることによって、現実を再構成する力をつけよう。
 5. <コミュニケーション力の展開>：作成したレジュメやレポートをもとに、プレゼンテーションの仕方を学び、口頭報告や討論をつうじてアイデアをさらに豊かにするコミュニケーション力を高めよう。

*全回出席を原則とする

【講義計画】

- 第1回 演習の概略説明と自己紹介
- 第2回 社会的現実に関心をもとう
- 第3回 社会的現実からテーマを発見しよう
- 第4回 講義ノートの上手なりかたを知ろう
- 第5回 情報収集について学ぼう
- 第6回 図書館の上手な使い方を知ろう
- 第7回 情報を解説してみよう
- 第8回 本を読むークリティカル・リーディングの手法を練習してみよう
- 第9回 レジュメ(要約)を書いてみよう
- 第10回 みんなの前で発表してみよう
- 第11回 報告を聞いて討論してみよう
- 第12回 レポートの書き方について
- 第13回 レポートを作成してみよう
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

出席点(30%)、授業における活動状況(20%)、レジュメなどの提出物(20%)、レポート(30%)

【教科書】

- 【02クラス・11クラス】
- ・著者：世界思想社編集部編
 - ・タイトル：大学生 学びのハンドブック
 - ・出版社：世界思想社

【06クラス・07クラス】

- ・著者：佐藤望〔編著〕
- ・タイトル：アカデミック・スキルズー大学生のための知的技法入門
- ・出版社：慶應義塾大学出版会

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

*授業項目の回数を調整したり、順序を入れ替えたりする場合があります。

【準備学習の指示】

各担当者の指示に従って、予習・復習を行ってください。

科目名 クラス 講義区分

社会学科文献演習〔2〕 01<春>

大野 順子

2単位

【講義概要】

近年、世界的に広がっている市民性教育 (citizenship education: シティズンシップ・エデュケーション) について、日本と海外の両方のコンテキストから、なぜ、このような教育が社会で注目されているのかについて考えていく。そのために具体的な実践例について書かれている文献やリサーチペーパー (最新の論文等) を全員で読んでいく。

【学習目標】

最近では市民やNPOなど、個々人の活動が社会的に注目・期待されているが、その一役を担うものとしてある「市民性教育」のあり方について検討していく。また、可能であれば実際に学校へもフィールドワークに出向き、理論と実践の両面から「市民性教育」について考えていく。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション「市民性教育」について
※各回の発表担当者を決めますので必ず出席してください。
- 第2回 テキスト『人生設計能力を育てる市民性教育の要約』発表とディスカッション
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 海外の事例：イギリス
- 第9回 海外の事例：オーストラリア
- 第10回 海外の事例：カナダ・アメリカ
- 第11回 海外の事例：アジア諸国
- 第12回 日本の事例 (可能であればフィールドワーク実施)
- 第13回 日本の事例 (可能であればフィールドワーク実施)
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

1. 出席 (コメントカードへの記入)
2. 授業への貢献度 (要約のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加)
3. 課題・レポートの提出 (締切厳守)
4. 期末試験 (予定)

以上により、総合的に評価します。

【教科書】

今谷順重編 人生設計能力を育てる市民性教育 教育開発研究所
本テキストを使用しますので各自購入のこと

【参考文献】

その都度準備します。

【備考】

【準備学習の指示】

教育関連の文献を各自読み、現在、(市民性教育に限らず) 教育界が抱えている諸問題について大まかに把握しておくことを薦めます。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 02<春>	
捧 堅 二	2単位

【講義概要】

映像を利用しながら、「伝統的社会」と「近代社会」との比較を通じて、社会学の基本的概念について学ぶ

【学習目標】

わたしたちは、今日の「近代（現代）社会」をまるで「空気」のような自然なものとして受け止めている。しかし、「近代社会」も歴史のなかから生まれてきた社会である。今から143年前までは江戸時代だった。わたしの子ども頃にはまだ江戸時代生まれの高齢者（「明治」の前の「慶応」まれの人）が生きていた。

劇映画やTVドラマなどを手がかりとしつつ、「伝統的社会」および近代化のスタート時の社会について学びつつ、今日の「近代社会」との比較をおこないたい。そのなかで社会学の勉強をする。その際、読書案内もする。

【講義計画】

- 第1回 “あなたは時代劇を見ますか”
江戸時代は遠い過去ではない。
歴史、歴史小説と時代小説、時代劇
「伝統的社会」と「近代社会」について。
- 第2回 “国語と国民は創り出された”
TVドラマ『國語百年』（井上ひさし原作、新潮文庫ほか）
鑑賞
明治維新、近代化、国語、近代国家（国民国家）
- 第3回 （同上）
- 第4回 “武家の次男、三男はたいへん”
TVドラマ『風の果てに』（藤沢周平原作、文春文庫、上下）
鑑賞
身分制、お家、扶持、厄介叔父、婿入り
- 第5回 （同上）
- 第6回 （同上）
- 第7回 “死んだ殿様の後を追って、切腹する侍たち”
映画『阿部一族』（森岡外原作、岩波文庫ほか） 鑑賞
殉死、伝統的支配、恭順、お家、カリスマ的支配
- 第8回 （同上）
- 第9回 （同上）
- 第10回 “討ち入りした47人の動機は”
赤穂浪士（忠臣蔵）関係の映像（何を見るかは未定）
「理解社会学」と「社会的行為」の4類型（「価値合理的行為」等々）
- 第11回 （同上）
- 第12回 （同上）
- 第13回 “天皇はカリスマだ”
映画『拝啓天皇陛下様』（棟田博原作、光人社NF文庫）
白馬にまたがる昭和天皇、カリスマ、戦前・戦中の日本
- 第14回 （同上）
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 90% 出席 10%
指定された本から1冊を選び、短いレポート（1200～1600程度）を提出。（ほかに超ミニ・レポート（200字程度）を数回求めるかも知れない）

“出席”よりも“レポート”を重視。

“試験”はしない。

【教科書】

使用しない

【参考文献】

- 上記の書物のほかに
山本夏彦『誰か「戦前」を知らないか』文春新書、1999年
宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫、1984年
山本博文『日本人の心——武士道入門』中経の文庫、2006年
山本博文『忠臣蔵のことが面白ほどわかる本』中経出版、2003年
藤沢周平『風の果て』上下、文春文庫
藤沢周平『たそがれ清兵衛』文春文庫
松本清張『無宿人別帳』文春文庫
大佛次郎『赤穂浪士』上下、新潮文庫
マックス・ウェーバー『職業としての政治・職業としての学問』日経BP社、2009年
マックス・ウェーバー『支配の社会学』I II、創文社、
安藤英治『マックス・ウェーバー』講談学術文庫
羽入辰郎『マックス・ウェーバーの哀しみ』PHP新書
その他、教室で多数あげる。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 03<春>	
清 水 夏 樹	2単位

【講義概要】

高度情報化消費社会を迎えて以降のわが国の文化変容をいくつかの切り口からまなぶことを目的とする。メディア文化と旧来の伝統との関係、宗教ブームとサブカルチャーとの関連をはじめ、それらがアニメ作品やゲームソフト、現代音楽にどう反映されているのか。これら（一項とはかぎらない）をテーマに、若い世代が担う文化と先人・大人たちがつくった既成の社会文化との落差、共存、競合の実態をさぐってみる。

【学習目標】

インターネット、携帯サイト、ファミコンゲーム機等IT技術が急進展をみせる一方、意外と古い文化的伝統が見直され、好奇の対象と化している。日本発のアニメドラマが世界レベルで認知されて、何よりも各国の若い世代層から好評価を得ている点からもその一面は察せられる。それらは日本の文化理解の入口であり、反対からは異文化理解へのツールをひらくものでもある。他方、そんな中一国の内外において一部の若者や主婦層が「宗教」もしくは「神秘」的世界に魅かれやすい（もしくははまり易い）事実も指摘される。このようなトレンド・スポット、光と影を現代社会の動向からとらえ直す姿勢を大切にしてほしい。

【講義計画】

- 第1回 6-70年代 宗教と社会 モラトリアム
- 第2回 80年代 高度消費化とサブカルチャーの底流
- 第3回 ブームとしての宗教、スピリチュアリズム
- 第4回 バブル期前後—おおいなる空白期、（しらけ）から（おたく）へ
- 第5回 ゲームソフトの開発とアニメ文化
- 第6回 アニメ作品にみる神話・伝承世界、その現代的よみ替え
- 第7回 〈鎮め〉の文化装置、〈癒し〉系、青年世代の文化と価値フレーム、「聖」「俗」「遊」から擬似宗教性を考える
- 第8回 インターネット空間とバーチャル体験
- 第9回 バーチャル空間と宗教的世界—オカルト・神秘志向、カリスマ願望
- 第10回 '90-'00年、自分さがしⅠ アイデンティティの漂流 終りなき旅
- 第11回 自分さがしⅡ 前項およびセルフリアレンスからみたJポップシーン
- 第12回 「物語り」化—つくり手のテーマとモチーフ、世界に羽ばたくアニメ作品、宮崎アニメを手がかりに
- 第13回 〈セカイ〉系の生成、諸々のイメージ世界の発信源としてのメディア「エヴァンゲリオン」を手がかりに
- 第14回 “時間”の縮減と縮約—バーチャルリアリティの極致
- 第15回 全講の整序・総括

【成績評価の方法】

レポートを主要な評価対象とする。その上で数回に及ぶ簡易レポート、出席状況、受講態度（発言、発表内容等）を加味して評点する

【教科書】

高橋勇悦・藤村正之 編著『青年文化の聖・俗・遊』恒星社・厚生閣出版

【参考文献】

大村英昭・西山茂編著『現代人の宗教』有斐閣ほか

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 04<春> 社会学科文献演習 [2] 11<秋>	
畠中宗一	2単位

【講義概要】

家族現象や社会病理現象を社会システムと家族システム、家族システムとそのサブシステムの交差領域のせめぎ合いの産物として認識し、その背景を理解する基本的なテキストを読みながら、討論を積み重ね、自己の社会学的認識を深める。

【学習目標】

文献演習は、文献の読解力、研究上のアイデアやヒント、社会的想像力などを獲得することがその目標である。

富裕化社会における複数の命題群のなかで、「富裕化が関係性や繋がりを喪失させるように機能している」側面について、関連する文献を読むことによって、この命題に関する考察を深める。

【講義計画】

- 第1回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第2回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第3回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第4回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第5回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第6回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第7回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第8回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第9回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第10回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第11回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第12回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第13回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。
- 第14回 テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

柳田邦男 壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別 新潮文庫
前期使用
荒井千暁 職場はなぜ壊れるのか ちくま新書
後期使用

【参考文献】

演習の進行に応じて、適宜、文献を紹介する。

【備考】

社会病理学に関連するテキストを使用する。テキストを正確に理解し、且つ批判的に読む訓練を行う。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 05<春>	
山内乾史	2単位

【講義概要】

本講義では、現代の社会学的問題中、若者と教育に関する文献を中心に購読します。特に今年度は社会の階層化と教育、若者文化の二つテーマに基づき文献を講読します。

【学習目標】

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会学的なもの見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

【講義計画】

- 第1回 インTRODクシヨン—講義の概要説明・割り当て決定・レジュメの書き方の指導—
- 第2回 若者の教育と文化に関する概説
- 第3回 第1文献講読(1)
- 第4回 第1文献講読(2)
- 第5回 第1文献講読(3)
- 第6回 第1文献講読(4)
- 第7回 第2文献講読(1)
- 第8回 第2文献講読(2)
- 第9回 第2文献講読(3)
- 第10回 第2文献講読(4)
- 第11回 第3文献講読(1)
- 第12回 第3文献講読(2)
- 第13回 第3文献講読(3)
- 第14回 第3文献講読(4)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 0% 出席 100%
発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。試験やレポートは課しません。

【教科書】

河本敏浩 名ばかり大学生—日本型教育制度の終焉— 光文社
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。
本田由紀 教育の職業的意義 筑摩書房
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。
梅澤正 職業とは何か 講談社
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。

【備考】

【準備学習の指示】 次回講読する予定の文献を必ず目を通しておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 06<春>	
渡 部 美穂子	2単位

【講義概要】

社会心理学では、私たちの身近に起こる問題が数多く取り上げられている。研究者たちは、自分が日常生活の中で感じる疑問からヒントを得て先行研究にあたり、研究テーマを深化させてゆくのである。受講生のみなさんには、研究者の卵としておもに文献検索と情報収集について学び、レポートを作成するとともに他の受講生にもその情報を共有してもらえようプレゼンテーションを行ってもらおう。

【学習目標】

自らの関心に沿った情報を収集し、先行研究をひもとくこと、レポートを完成させること、その内容を他の受講生にわかりやすく説明するためにはどのようにすればよいのか、について学ぶことがこの演習の目標である。また、受講生が互いに評価しあうことにより、より深くプレゼンテーションの問題点を理解してもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報収集について(1)
- 第3回 情報収集について(2)
- 第4回 文献検索(1)
- 第5回 文献検索(2)
- 第6回 テーマの設定
- 第7回 レポート作成(1)
- 第8回 レポート作成(2)
- 第9回 レジюме作成(1)
- 第10回 レジюме作成(2)
- 第11回 レジюме作成(3)
- 第12回 プレゼンテーションと評価(1)
- 第13回 プレゼンテーションと評価(2)
- 第14回 プレゼンテーションと評価(3)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%
発表内容と議論への積極的な参加の程度を出席点に含め、レポートと合わせて考課の材料とする。

【教科書】

使用しない

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 07<秋>	
池 田 知 加	2単位

【講義概要】

テキストは「公共性」について書かれた短いコンパクトな本です。「公共性」についての概念史だけでなく、その今日的な意義についても考えさせられるテキストです。「公共性」ときくと、自分をおさえ我慢して公のために尽くす「滅私奉公」や、どう考えても無駄に思える空港やダムを建設する国の「公共事業」などを思い浮かべてしまうかもしれません。ですが、「公共性」というのは、もっと違う意味合いもあります。それは、他者に見られ、聞かれること、同じく自分も他者の話を見聞きすること、そういう人と人との関係のあるところをイメージしてください。

【学習目標】

まずは、じっくりと、ゆっくりと、テキストを読んで内容を理解していくことを目標にします。そして、他者の話を見聞きして、自分もまた他者の前に現れること、そんな公共空間を教室の中でつくりあげていくように、議論に参加して、自分の考えを述べるができる。

【講義計画】

- 第1回 授業の進め方と担当者を決めます。
- 第2回 報告と討論
- 第3回 報告と討論
- 第4回 報告と討論
- 第5回 報告と討論
- 第6回 報告と討論
- 第7回 報告と討論
- 第8回 報告と討論
- 第9回 報告と討論
- 第10回 報告と討論
- 第11回 報告と討論
- 第12回 報告と討論
- 第13回 報告と討論
- 第14回 報告と討論

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

【教科書】

齊藤純一 公共性 岩波書店

【参考文献】

講義で提示します。

【備考】

準備学習の指示

- ・あらかじめテキストを読んで授業にのぞむこと
- ・授業で提示された文献について読むこと

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 08<秋>	
大野 順子	2単位

【講義概要】

現代のような人口移動のグローバル化に伴う民族的多文化化や価値観の多元化は、個々人の存在（またはアイデンティティ）をますます個人化、断片化、非領土化する傾向にある。そこで、特に社会のなかでマイノリティと分類される人々に着目し、かれらの状況を様々な文献やビデオ・映画等の視聴覚教材から学び、かれらの多様性やアイデンティティを包摂していく多文化共生の視点から、これからの社会のあり方について、ディスカッションなどを通して意見交換し、考えていく。

【学習目標】

本講義では、上記講義概要のもと、私たちは社会のなかでどのように他者ととも存在し、それぞれの自己アイデンティティを「承認」されるべきなのかについて担当者を含めた受講生全員で協同的に学び、考え、明らかにしていく。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的マイノリティについて（概論）
- 第3回 社会的マイノリティ（具体例：在住外国人問題）
- 第4回 上記テーマ（第3回）に関する購読文献の発表／ディスカッション
- 第5回 上記テーマ（第3回）関連する視聴覚教材等の鑑賞とディスカッション
※場合によっては本学において外国にルーツを持つ学生に話題提供者として参加してもらう予定
- 第6回 社会的マイノリティ（具体例：ジェンダー 女性性／男性性）
- 第7回 上記テーマ（第6回）に関する購読文献の発表／ディスカッション
- 第8回 上記テーマ（第6回）関連する視聴覚教材等の鑑賞とディスカッション
- 第9回 社会的マイノリティ（具体例：セクシュアリティ）
- 第10回 上記テーマ（第9回）に関する購読文献の発表／ディスカッション
- 第11回 上記テーマ（第9回）関連する視聴覚教材等の鑑賞とディスカッション
- 第12回 社会的マイノリティ（具体例：社会的階層）
- 第13回 上記テーマ（第12回）に関する購読文献の発表／ディスカッション他
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

1. 出席
 2. 授業への貢献度
(プレゼンテーション、ディスカッション等への参加)
 3. 課題・レポートの提出
- 以上により、総合的に評価する
なお、試験は実施しない。

以上により、総合的に評価します。

【教科書】

各テーマに即した文献を担当者のほうでコピーし配布します。

【参考文献】

その都度、指示する。

【備考】

【準備学習の指示】

「格差」「貧困」「社会的排除」「アイデンティティ」「差別」などに関する本（例えば、岩波ブックレットなどの安価なシリーズ参考）1冊を図書館や書店の新書コーナーで入手し読んでおくこと。第一回目の講義で簡単な要約をしてもらう予定です。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 09<秋>	
捧 堅 二	2単位

【講義概要】

アメリカ社会について学ぶこと、またそのなかで社会学の基礎を学ぶこと。
ほぼ毎回、映像を利用して授業を進めたい。

【学習目標】

“アメリカを知る”ことと“社会学のいくつかの用語（概念）を学ぶ”ことの“二兎を追う”。

【講義計画】

- 第1回 TV映像（オバマのホワイトハウスへの道）
オバマは「カリスマ」か、「デマゴグ」か
- 第2回 アメリカにおける人種主義
映画『ミシシッピー・バーニング』
公民権運動、KKK、ケネディ政権
- 第3回 (同上)
- 第4回 アメリカの利益集団
映画『ホワイトハウス狂想曲』
アソシエーション、利益団体、民主政治
- 第5回 (同上)
- 第6回 統社会アメリカ
映画『ボーリング・フォ・コロムバイン』
アメリカの歴史的伝統、暴力の文化、全米ライフル協会
- 第7回 (同上)
- 第8回 ケネディ暗殺事件
映画『ダラスの熱い日』
政治的暴力、暗殺の歴史、「アサシン」の語源、日本の暗殺
- 第9回 (同上)
- 第10回 (同上)
- 第11回 アメリカと戦争
ニュース映像『ニュース・ステーション』（イラク戦争開戦）
TVドラマ『時空警察』（真珠湾陰謀説）
映画『トラ・トラ・トラ』
イラク戦争開戦の決定、パウル・ハーバー陰謀説、日米開戦への過程
- 第12回 (同上)
- 第13回 (同上)
- 第14回 (同上)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 90% 出席 10%
指定された本から1冊を選び、短いレポート（1200～1600程度）を提出。
（ほかに超ミニ・レポート（200字程度）を数回求めるかも知れない）
“出席”よりも“レポート”を重視。
“試験”はしない。

【教科書】

使用しない

【参考文献】

池上彰『そうだったのか！アメリカ』集英社文庫、2009年
C・W・ミルズ『パワー・エリート』上下、東京大学出版会
フランシス・フクヤマ『「大崩壊」の時代』上下、早川書房、2000年
小熊 英二『市民と武装』慶應義塾大学出版会 2004年
ファリド・ザカリア『アメリカ後の世界』徳間書店2008年
渡辺将人『見えないアメリカ』講談社現代新書2008年
堤 未果『ルポ 貧困大国アメリカ』岩波新書、2008年
土田宏『ケネディ——「神話」と実像』中公新書、2007年
ジム・ギャリソン『JFK——ケネディ暗殺犯を追え』ハヤカワ文庫、1992年
フランシス・フクヤマ 『アメリカの終わり』講談社
マックス・ウェーバー『職業としての政治・職業としての学問』日経BP社、2009年
安藤英治『マックス・ウェーバー』講談社学術文庫
羽入辰郎『マックス・ウェーバーの哀しみ』PHP新書
その他、授業の際にあげる。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 10<秋>	
清水 夏樹	2単位

【講義概要】

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえて、以下各自関心項目を設定してもらおう（例＝現代音楽、オカルト・宗教ブーム、漫画・アニメ作品、メディア文化等）。

－6、70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動向と底流をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

【学習目標】

サブカルチャーという既成の文化・社会の枠から、外縁・下位にあったものが、しだいに脚光を浴び、やがてはメイン＝中心域にまで迫る。その動態＝ダイナミクスに留意し、自分なりに社会、歴史、文化への関心をたかめる努力を忘れないこと

【講義計画】

- 第1回 大衆社会から小衆・分衆社会へ
- 第2回 6－70年代から80年代へ、文化現象をとらえる準拠枠
- 第3回 聖・俗・遊フレームⅠ、青年文化と成人社会
- 第4回 “ ” Ⅱ、「聖」「遊」連合から「聖」なるものの「遊」化へ
- 第5回 “ ” Ⅲ 「遊」の肥大化現象
- 第6回 8－90年代 以上をふまえてのsubculturalな背景
- 第7回 “ ” 高度消費社会と高度情報化のインパクト
- 第8回 “ ” 高度情報化ともの、言葉、メッセージ
- 第9回 「しらけ」から「おたく」へ。消費社会の文化とシンボル論
- 第10回 「おたく」再解釈 サブカルチャーの記号論的解釈
- 第11回 セルフ・アイデンティティをめぐる問題情況。自分さがし、癒し系
- 第12回 同じく自分さがし＝物語化、つくり手のモチーフ、アニメ・ドラマ等に見る共感の構造
- 第13回 ゲームソフトの変質と〈セカイ〉系をめぐる問題
- 第14回 セカイ系と現実世界、かい離と触発、接点と切点
- 第15回 インターネット空間と現実再帰性、セルフリファレンス

【成績評価の方法】

期末の提出レポートを主たる評点の対象とする。他に、そのつど課す簡易レポート。出席時の学習態度（発言、等）読書意欲等に配慮し加味する。

【参考文献】

講義中に随時紹介・呈示する

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 12<秋>	
藤田 悟	2単位

【講義概要】

近年、格差・貧困をめぐる議論が活発に見られるが、その内容は極めて多様である。巷に溢れる様々な格差社会論をどう読み解くか、どう向き合うべきか、テキストの輪読・発表を通じてそのリテラシー能力を鍛えてもらいたい。

【学習目標】

テキストの読解力を身に付けてもらうことが第一ですが、レジュメの作り方や議論の作法なども身に付けてほしいと思います。活発な議論を期待しています。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト輪読
- 第3回 テキスト輪読
- 第4回 テキスト輪読
- 第5回 テキスト輪読
- 第6回 テキスト輪読
- 第7回 テキスト輪読
- 第8回 テキスト輪読
- 第9回 テキスト輪読
- 第10回 テキスト輪読
- 第11回 テキスト輪読
- 第12回 テキスト輪読
- 第13回 テキスト輪読
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート、発表、議論の内容を総合的に判断して評価する。

【教科書】

湯浅誠『反貧困——「すべり台社会」からの脱出』2008年 岩波新書

岩田正美『現代の貧困——ワーキングプア／ホームレス／生活保護』2007年 ちくま新書

以上の2冊について、輪読を行う。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 13<秋>	
山内 乾史	2単位

【講義概要】

本講義では、現代の社会的問題中、若者と教育に関する文献を中心に購読します。特に今年度は社会の階層化と教育、結婚の二つテーマに基づき文献を講読します。

【学習目標】

この文献演習では、社会における教育の役割、学校の役割を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会的なものの方の見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

【講義計画】

- 第1回 インTRODクシヨン—講義の概要説明・割り当て決定・レジュメの書き方の指導—
- 第2回 社会階層、若者の教育と結婚に関する概説
- 第3回 第1文献講読(1)
- 第4回 第1文献講読(2)
- 第5回 第1文献講読(3)
- 第6回 第1文献講読(4)
- 第7回 第2文献講読(1)
- 第8回 第2文献講読(2)
- 第9回 第2文献講読(3)
- 第10回 第2文献講読(4)
- 第11回 第3文献講読(1)
- 第12回 第3文献講読(2)
- 第13回 第3文献講読(3)
- 第14回 第3文献講読(4)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 0% 出席 100%
発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。試験やレポートは課しません。

【教科書】

小林雅之 進学格差 筑摩書房
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。
九鬼太郎 超格差社会・韓国 扶桑社
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。
太田光・田中裕二・本田由紀 爆笑問題のニッポンの教養—我働くゆえに幸あり?— 講談社
テキストはすべてこちらでコピーして配布します。購入の必要はありません。

【備考】

【準備学習の指示】 次回講読する予定の文献を必ず目を通しておくこと。

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 14<秋>	
渡部 美穂子	2単位

【講義概要】

社会心理学では、私たちの身近に起こる問題が数多く取り上げられている。研究者たちは、自分が日常生活の中で感じる疑問からヒントを得て先行研究にあたり、研究テーマを深化させてゆくのである。受講生のみなさんには、研究者の卵としておもに文献検索と情報収集について学び、レポートを作成するとともに他の受講生にもその情報を共有してもらえようプレゼンテーションを行ってもらおう。

【学習目標】

自らの関心に沿った情報を収集し、先行研究をひもとくこと、レポートを完成させること、その内容を他の受講生にわかりやすく説明するためにはどのようにすればよいのか、について学ぶことがこの演習の目標である。また、受講生が互いに評価しあうことによって、より深くプレゼンテーションの問題点を理解してもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報収集について(1)
- 第3回 情報収集について(2)
- 第4回 文献検索(1)
- 第5回 文献検索(2)
- 第6回 テーマの設定
- 第7回 レポート作成(1)
- 第8回 レポート作成(2)
- 第9回 レジュメ作成(1)
- 第10回 レジュメ作成(2)
- 第11回 レジュメ作成(3)
- 第12回 プレゼンテーションと評価(1)
- 第13回 プレゼンテーションと評価(2)
- 第14回 プレゼンテーションと評価(3)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%
発表内容と議論への積極的な参加の程度を出席点に含め、レポートと合わせて考課の材料とする。

【教科書】

使用しない

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 15<秋>	
原 口 剛	2単位

【講義概要】

現在、貧困や格差といった問題が深刻化し、社会的な注目を集めています。これらの問題に、私たちはどのように向き合っていけばよいのでしょうか？

このような問いを、本講義ではじっくりと考えていきます。テキストは生田武志『<野宿者襲撃>論』を用います。講義ではまず、テキストを読み解くことで、釜ヶ崎や野宿者をめぐる問題を共に考えていきます。そのことをつうじて、「現代社会とはなにか」「他者と共に生きるとはどういうことか」といった問いを、受講生ひとりひとりのこれまでの／これからの生き方にひきつけて、考えてもらいたいと思います。

なお、講義では受講生の関心に応じて、映像資料や音楽といった素材も補助的に取り入れ、理解を深めます。また、釜ヶ崎や野宿の現場へのフィールドワークを適宜組み込む予定です。

【学習目標】

- ① 「じぶんの考えを言葉にして他者に伝える」「他者の言葉に耳を傾ける」といった、他者と共に生きるための基本的な作法を学ぶ。
- ② 釜ヶ崎や野宿をめぐる問題を理解することをつうじて、「現代社会とはなにか」「他者と共に生きるとはどういうことか」を問い、それを自分自身が生きるうえでの課題として考える視座を身につけること。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「人の命は大切」なのか？
- 第3回 野宿者襲撃は「正義」だったのか？
- 第4回 「九〇年代、少年犯罪は凶悪化した」のか？
- 第5回 少年たちが野宿者襲撃をしているとすれば、少女たちは何をしているのか？
- 第6回 「まったり革命」とは何だったのか？
- 第7回 「まったり革命」が追い抜かれたとき、何が語られるべきなのか？
- 第8回 野宿者襲撃の性質は変化しつつあるのか？
- 第9回 アンケートに見る中学・高校生の野宿者への意識
- 第10回 「一九六八年革命」と共同体の崩壊
- 第11回 「学校内虐待＝いじめ」と「学校外虐待＝野宿者襲撃」と
- 第12回 なぜ野宿者襲撃は思春期に特有な行為なのか？
- 第13回 釜ヶ崎をあるく
- 第14回 野宿の現場をあるく
- 第15回 ふりかえり

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

【教科書】

生田武志 <野宿者襲撃>論 人文書院

科目名 クラス 講義区分	
社会学科文献演習 [2] 16<秋>	
石 田 あゆう	2単位

【講義概要】

現代社会は非常に多様で「何でもあり」のおもしろい世界です。「今」という時代の空気を言語化、イメージ化して編集し、社会をさまざまな視点から眺め、そこから現代社会の分析まで進んでみましょう。

「今」があるのはどのような歴史をたどり、そして現在どのような問題を抱えてしまったのか、今後はどのような未来があるのか。答えはありません。自分でその道筋をたどれるようになることで、自分なりの「考え」を見つけましょう。

【学習目標】

本演習では、現代社会の問題を扱う文献（できれば毎週1冊づつ）を読み、最後に受講者の関心に沿ったレポートの執筆完成を目指します。

自分自身で現代の流行現象や文化表現、思想言論のなかからテーマを発見し、それに関する資料を幅広く集め、それらを使ってひとつのストーリーを完成させる基礎力を養います。

【講義計画】

- 第1回 報告文献の探し方から報告者の決定まで
- 第2回 文献読解のポイント、発表にあたっての注意事項など
- 第3回 第1回 文献内容報告、ディスカッション
- 第4回 第2回 文献内容報告、ディスカッション
- 第5回 第3回 文献内容報告、ディスカッション
- 第6回 第4回 文献内容報告、ディスカッション
- 第7回 レポートテーマの決定。レポートとは何かについて。
- 第8回 第5回 文献内容報告、ディスカッション
- 第9回 第6回 文献内容報告、ディスカッション
- 第10回 第7回 文献内容報告、ディスカッション
- 第11回 第8回 文献内容報告、ディスカッション
- 第12回 レポート中間報告(1)
- 第13回 レポート中間報告(2)
- 第14回 レポート提出
- 第15回 レポート講評

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 40% 出席 60%
ただし出席するだけでは単位は認めない。「出席」は、ディスカッションへの参加、演習時間外の発表準備の度合いで評価する

【参考文献】

演習中に適宜指示する。

【備考】

何冊か本を購入してもらうので、それだけのテキスト代が必要になります。

科目名 クラス 講義区分	
社会思想史 <春集>	
梅田 百合香	4単位

【講義概要】

本講義は、近代から現代までの西洋の社会思想史の流れを、「政治と宗教」、「戦争と平和」、「近代思想と現代思想」という大きなテーマから分析する。その際、各思想家の議論の特徴および思想家間の批判と継承の相互連関について、当時の政治・経済・社会状況および国際関係をおさえながら考察する。具体的には、近代思想の基点ともいえるホッブズ、ロック、ルソーの社会契約論を見直したうえで、近代の諸問題を乗り越えようとしたアレントおよびネグリの現代思想の検討を行う。これによって、近代思想と現代思想双方の課題と展望を解明し、現代の我々が構築すべき人間像と社会を認識するための視点を追求する。

【学習目標】

現代社会と現代世界を批判的に認識する視点と問題を克服するための独創的な構想力を養うことを目標とする。ホッブズらの思想は、ユダヤ・キリスト教および古代ギリシア・ローマの伝統を批判的に継承するなかで形成されたものであり、彼らを理解するためには、それらについて一定の素養が必要となる。この点は、宗教や歴史に関する映像資料を視聴することによって補完し、思想の背景にある歴史的事件や政治的・宗教的問題を理解しながら、社会思想と現代世界について多角的に学ぶことになる。

【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス（方針、評価、イントロダクション）
- 第2回 ホッブズ(1)人物・時代背景Ⅰ
- 第3回 ホッブズ(2)人物・時代背景Ⅱ
- 第4回 ホッブズ(3)理論分析Ⅰ
- 第5回 ホッブズ(4)理論分析Ⅱ
- 第6回 ホッブズ(5)現代的意義と課題
- 第7回 ロック(1)人物・時代背景Ⅰ
- 第8回 ロック(2)人物・時代背景Ⅱ
- 第9回 ロック(3)理論分析Ⅰ
- 第10回 ロック(4)理論分析Ⅱ
- 第11回 ロック(5)現代的意義と課題
- 第12回 ルソー(1)人物・時代背景Ⅰ
- 第13回 ルソー(2)人物・時代背景Ⅱ
- 第14回 ルソー(3)理論分析Ⅰ
- 第15回 ルソー(4)理論分析Ⅱ
- 第16回 ルソー(5)現代的意義と課題
- 第17回 前半のまとめと復習
- 第18回 アレント(1)人物・時代背景Ⅰ
- 第19回 アレント(2)人物・時代背景Ⅱ
- 第20回 アレント(3)理論分析Ⅰ
- 第21回 アレント(4)理論分析Ⅱ
- 第22回 アレント(5)現代的意義と課題
- 第23回 ネグリ(1)人物・時代背景
- 第24回 ネグリ(2)理論分析Ⅰ
- 第25回 ネグリ(3)理論分析Ⅱ
- 第26回 ネグリ(4)理論分析Ⅲ
- 第27回 ネグリ(5)現代的意義と課題
- 第28回 後半のまとめと復習
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

特定の教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

【備考】

受講する際には、前回の講義内容を復習しておくこと。

授業計画については、受講者の理解度や進行状況等によって変更する場合がある。

科目名 クラス 講義区分	
社会心理学 <秋集>	
岩田 考	4単位

【講義概要】

社会心理学は、人間の行動を、社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てた心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。

【学習目標】

社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の基礎的な概念や理論を身につけてもらうことが目標です。「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合がありますが、社会学的研究への寄与を常に念頭にいたったものです。社会心理学を学ぶことによって、社会学と心理学の差違と共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。「純粹」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

【講義計画】

- 第1回 講義の概要
- 第2回 社会心理学とは
- 第3回 対人関係(1) 対人関係をめぐる現代的〈問題〉：関係の希薄化を中心に
- 第4回 対人関係(2) 映像から対人関係について考える
- 第5回 対人関係(3) 心理学的アプローチからみた対人関係の現代的特質
- 第6回 対人関係(4) 社会学的アプローチからみた対人関係の現代的特質
- 第7回 対人関係(5) 対人関係と電子メディア
- 第8回 自己(1) 自己をめぐる現代的〈問題〉：「不確かな自己」を中心に
- 第9回 自己(2) 映像から対人関係について考える
- 第10回 自己(3) 心理学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第11回 自己(4) 社会学的アプローチからみた自己意識の現代的特質
- 第12回 自己(5) 対人関係と電子メディア
- 第13回 集団と組織(1) 集団とは・個人と集団における意志決定
- 第14回 集団と組織(2) 映像から集団における意志決定について考える
- 第15回 集団と組織(3) 集団における課題遂行と集団間差別
- 第16回 流行と集合行動(1) 集合とは・流行とは
- 第17回 流行と集合行動(2) 映像から現代の流行について考える
- 第18回 流行と集合行動(3) 集合行動とは
- 第19回 マス・コミュニケーション(1) マス・コミュニケーションとは
- 第20回 マス・コミュニケーション(2) 映像からマス・メディアの効果について考える
- 第21回 マス・コミュニケーション(3) マス・メディアの効果
- 第22回 情報化(1) 情報化の光と影
- 第23回 情報化(2) 映像から情報化の光と影について考える
- 第24回 情報化(3) 情報化とネットワーク：社会関係資本論からみた情報化
- 第25回 心理学化・心理主義化(1) 心理主義化する社会
- 第26回 心理学化・心理主義化(2) 映像から心理主義化について考える
- 第27回 心理学化・心理主義化(3) 心理学化と社会学化
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

基本的には学期末試験(100%)で評価しますが、任意で提出してもらったレポート等も加味します。ただし、みなさんの出席状況や学習状況によっては、不定期に出席をとったり、小テストを行ったりと、学期末試験の評価全体における割合を低くする可能性があります。

【教科書】

必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書(2010年に勁草書房から出版予定)を指定する可能性があります。

【参考文献】

浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌－失われた十年の後に－』勁草書房
 浅野智彦・岩田考ほか著 2010『考える力が身につく社会学入門』中経出版
 安藤清志ほか著 1995『現代心理学入門4 社会心理学』岩波書店
 橋元良明編 2008『メディア・コミュニケーション学』大修館書店
 池田知子・遠藤由美 1998『グラフィック 社会心理学』サイエンス社
 岩田考ほか編 2006『若者たちのコミュニケーション・サバイバル－親密さのゆくえ』恒星社厚生閣
 末永俊郎・安藤清志編 1998『現代社会心理学』東京大学出版会
 『シリーズ情報環境と社会心理1－8』北樹出版
 『ニューセンチュリー社会心理学1－6巻』北樹出版
 『対人社会心理学重要研究集1－7』誠信書房
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】**【準備学習の指示】**

講義は、1回ごとに完結した内容になるようにしていますが、各回は相互に関連しています。準備学習として、配布したプリントで次回講義までに復習しておいてください。また、講義中に紹介する参考文献等を読み理解を深めてください。

科目名 クラス 講義区分

社会政策総論 <通期>

片岡 洋子

4単位

【講義概要】

社会政策という科目は、幅広い政策にまつわる課題を学ぶ科目です。この授業では前期に“働くこと”政策を、授業では「雇用」分野と呼び、働く上で欠くことのできない労働基準や働く環境の変化を取り上げます。後期は“生きること”にまつわる政策を学びます。生きるといっても大きなテーマですが、授業では生きていくうえで困ったときに頼る政策を主に取り上げます。例えば、高齢になって働けなくなったとき、病気になったとき、食べるものを変えないほど貧乏になったとき、などなど。生きていくうえで困った状況になったときのために国には年金、医療、生活保護といった制度があります。これらを総合して「社会保障」と呼びます。現在世界的不況の中で雇用も社会保障もどちらも関心の高まっている分野です。詳しく学んでみたいという人はぜひ受講してください。

【学習目標】

前期の目標は、人間が安全に働くためにどのような条件が必要か、それをどのように法律が整えてきたのかを理解することです。ただ働くといっても自営業で働く人もいれば、企業から雇われて働く（雇用労働といいますが）人もいて、いろいろな働き方があります。授業では現在最も多くの人々が働いている雇用労働を主に扱います。

後期は講義概要にも書いたとおり社会保障にまつわる政策を理解することが学習の目標です。

【講義計画】

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 労働基準 1
- 第3回 労働基準 2
- 第4回 労働基準 3
- 第5回 労働基準 4
- 第6回 労働市場 1
- 第7回 労働市場 2
- 第8回 労働市場 3
- 第9回 労働市場 4
- 第10回 企業社会 1
- 第11回 企業社会 2
- 第12回 企業社会 3
- 第13回 企業社会 4
- 第14回 雇用分野のまとめ
- 第15回 社会保障のINTRODakション
- 第16回 社会保障 1
- 第17回 社会保障 2
- 第18回 社会保障 3
- 第19回 社会保障 4
- 第20回 医療 1
- 第21回 医療 2
- 第22回 医療 3
- 第23回 医療 4
- 第24回 貧困線と公的扶助 1
- 第25回 貧困線と公的扶助 2
- 第26回 貧困線と公的扶助 3
- 第27回 貧困線と公的扶助 4
- 第28回 社会保障のまとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 授業内で小テスト、持ち帰りレポートを出す場合があります。これらは試験にプラスして加点します。

【教科書】

玉井 金五 大森 真紀 三訂 社会政策を学ぶ人のために 世界思想社

【参考文献】

授業内で指示

科目名	クラス	講義区分
社会調査A 01<春> 社会調査A 03<秋>		
木下 栄二	2単位	

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解することとともに、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護の重要性などについて講義する。

【学習目標】

社会福祉の実践のためには、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、さらに、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、社会福祉の現場での必須能力の習得であるとともに、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- | | | |
|------|----|-------------------------|
| 第1回 | 1 | 社会調査の意義と目的 |
| 第2回 | 2 | 社会調査の歴史 |
| 第3回 | 3 | 社会調査における倫理 |
| 第4回 | 4 | 社会調査における個人情報保護 |
| 第5回 | 5 | 社会調査の実施に当たってのITの活用方法 |
| 第6回 | 6 | 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数・仮説 |
| 第7回 | 7 | 測定と分析の基礎②記述と説明 |
| 第8回 | 8 | 統計法① 基本統計量と記述統計 |
| 第9回 | 9 | 統計法② クロス表と相関係数 |
| 第10回 | 10 | 量的調査の方法①種類と方法 |
| 第11回 | 11 | 量的調査の方法②サンプリングの論理 |
| 第12回 | 12 | 量的調査の方法③質問文の作成 |
| 第13回 | 13 | 質的調査の方法①聴き取り調査 |
| 第14回 | 14 | 質的調査の方法②ドキュメント分析 |
| 第15回 | 15 | 質的調査の方法③参与観察 |

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 15% 出席 15%
最終試験のほか、出席点、レポート点を加味して評価する。詳細は最初の講義にて説明する。

【教科書】

大谷信介ほか 社会調査へのアプローチ（第2版） ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】

テキストの該当箇所を必ず事前に読んでおくこと。理解促進のために多くの課題を出すので、それらにも積極的にチャレンジするように。

・02～09SS生および02～10SW生対象

科目名	クラス	講義区分
社会調査A 02<秋>		
岩田 考	2単位	

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- | | |
|------|----------------------|
| 第1回 | 現代社会と社会調査 |
| 第2回 | 社会調査の歴史 |
| 第3回 | 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理 |
| 第4回 | 社会調査の種類と既存データの活用 |
| 第5回 | 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数 |
| 第6回 | 測定と分析の基礎②仮説の構成 |
| 第7回 | 測定と分析の基礎③記述と説明 |
| 第8回 | 量的調査①種類と方法 |
| 第9回 | 量的調査②サンプリングの論理 |
| 第10回 | 量的調査③質問文の作成 |
| 第11回 | 量的調査④調査票調査の実際 |
| 第12回 | 質的調査①聴き取り調査 |
| 第13回 | 質的調査②ドキュメント分析 |
| 第14回 | 質的調査③参与観察 |
| 第15回 | 調査結果の読み方 |

【成績評価の方法】

基本的には、作業への取り組みと提出課題（30%）と学期末試験（70%）で評価します。ただし、レポート（任意）の評価も加味します。

【教科書】

大谷信介ほか編著 社会調査へのアプローチ [第2版] ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 森岡清志編著 2007『ガイドブック社会調査』[第2版] 日本評論社
 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社
 辻大介2008「世代や世相の文化への視座ー量的アプローチと質的アプローチ」ー南田勝也・辻泉編著『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房
 ハンス・ザイゼル 2005『数字で語るー社会統計学入門ー』新曜社
 山中速人編 2002『マルチメディアでフィールドワーク』有斐閣
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】

講義の最後に、次回の講義で扱う内容について、教科書の該当箇所を指示するので、必ず読んでください。

・02～10SS生および02～08SW生対象

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 04<秋>	
竹中英紀	2単位

【講義概要】

この科目は《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などの基本的な事項を、実際の調査例にもとづきながら学んでいく。これらは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習・演習に直接結びつくばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。また、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較をとおして社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおく。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①記述と説明
- 第6回 測定と分析の基礎②概念・操作的定義・変数
- 第7回 測定と分析の基礎③仮説の構成
- 第8回 量的調査①テーマと仮説
- 第9回 量的調査②質問文の作成
- 第10回 量的調査③サンプリングの論理
- 第11回 量的調査④質問紙調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

試験 100%
授業時間内に実施する小テスト（50%）と、学期末試験（50%）を総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 菅原琢『世論の曲解』光文社新書、2009年。
- [2] 谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書、2007年。
- [3] 宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書、2004年。

【備考】

【準備学習の指示】
常日頃から、新聞などで報道されるさまざまな統計や社会調査の結果に関心を持つこと。授業計画を参照して、事前に教科書の該当箇所をよく読んでくること。
・02～10SS生および02～08SW生対象

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 05<秋>	
村上あかね	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
詳細は第1回の授業時に説明します。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 嶋崎尚子, 2008, 『社会をとらえるためのルール——社会調査入門』学文社
- ハンス・ザイゼン (佐藤郁哉訳), 2005, 『数字で語る——社会統計学入門』新曜社
- 森岡清志, 2007, 『ガイドブック社会調査 [第2版]』日本評論社

【備考】

・02～10SS生および02～08SW生対象

科目名 クラス 講義区分	
社会調査A 06<秋> 社会調査A 07<秋>	
上野 淳子	2単位

【講義概要】

この科目では、《社会調査入門》をめざして、社会調査の目的やその意義と用途、調査の歴史、具体的な方法、調査の倫理などを、実際の調査例に基づきながら、その基本的な事項について学ぶことになる。

【学習目標】

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マスメディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得は重要である。さらに、社会学の各専門分野に共通する、集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる視角（量的調査法）、少数事例の線密な検討から社会全体の把握へと向かう視角（質的調査法）、という二つの分析視角の獲得にも重点をおきたい。それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

【講義計画】

- 第1回 現代社会と社会調査
- 第2回 社会調査の歴史
- 第3回 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
- 第4回 社会調査の種類と既存データの活用
- 第5回 測定と分析の基礎①概念・操作的定義・変数
- 第6回 測定と分析の基礎②仮説の構成
- 第7回 測定と分析の基礎③記述と説明
- 第8回 量的調査①種類と方法
- 第9回 量的調査②サンプリングの論理
- 第10回 量的調査③質問文の作成
- 第11回 量的調査④調査票調査の実際
- 第12回 質的調査①聴き取り調査
- 第13回 質的調査②ドキュメント分析
- 第14回 質的調査③参与観察
- 第15回 調査結果の読み方

【成績評価の方法】

最終試験（70％）と授業への取り組み（出席と授業中の課題提出を合わせて30％）により評価します。

【教科書】

大谷信介ほか 社会調査へのアプローチ（第2版）ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】

授業前に、テキストの該当する部分を読んでください。次回までに読むページは、各回の授業で指示します。

・02～10SS生および02～08SW生対象

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 01<春>	
木下 栄二	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使つての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

試験 20％ レポート 50％ 出席 30％
筆記試験、レポート、出席状況（および共同作業への参加度）によって評価する。詳細は第一回の授業時に説明する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ（第2版）』ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】

テキストの該当箇所を必ず事前に読んでおくこと。理解促進のために多くの課題を出すので、それらにも積極的にチャレンジするように。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 02<春>	
竹中英紀	2単位

【講義概要】

「社会調査A」の単位取得者を対象として、質問紙調査法を中心に、小グループ単位での実体験をまじえながら、社会調査の設計と実施に関する知識の習得をめざす。受講生同士で小グループを編成し、調査と集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席だけでなく、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【学習目標】

社会調査とは「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、それはなぜか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この授業では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

レポート 100%
授業時間内に作成したり、宿題として提出する小レポート（毎回、計50%）と、期末レポート（2000字程度、50%）とを総合して評価する。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- [1] 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。
- [2] 齋藤孝『偏愛マップ』新潮文庫、2009年
- [3] 上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。

【備考】

【準備学習の指示】

この科目は、「社会調査A」の単位をすでに修得していることが受講の前提条件になる。調査のテーマを考えたり、仮説を構築するためには、幅広い読書を通して、自分の中に引き出しを数多く作っておくことが望ましい。また共同作業を行なう際には、グループのメンバー間での連絡を密にとり、納得がいくまで討論をくり返すこと。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 03<春> 社会調査B 05<秋>	
村上あかね	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使っての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%
詳細は第1回の授業時に説明します。

【教科書】

大谷信介ほか『社会調査へのアプローチ[第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 嶋崎尚子, 2008, 『社会をとらえるためのルール——社会調査入門』学文社
- 原純輔・海野道郎, 2004, 『社会調査演習[第2版]』東京大学出版会
- 森岡清志, 2007, 『ガイドブック社会調査[第2版]』日本評論社
- ハンス・ザイゼル（佐藤郁哉訳）, 2005, 『数字で語る——社会統計学入門』新曜社
- 村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士編, 2007, 『SPSSによる多変量解析』オーム社
- 山本善郎, 2005, 『レポート・プレゼンに強くなるグラフの表現術』講談社（現代新書）

科目名 クラス 講義区分	
社会調査B 04<春>	
上野 淳子	2単位

【講義概要】

社会調査Aの単位取得者を対象として、質問紙（調査票）調査法を中心に、小グループ単位での体験実習もまじえながら、社会調査の設計と実施方法に関する知識の実践的習得をめざす。

【学習目標】

質問紙調査法とは、「はい」が何%、「いいえ」が何%などといった単純なものにとどまるものではない。社会学の社会調査においては、社会のなかでいったいいかなる人たちの集団が、どのような意識や行動を示すのか、という社会学的な仮説の構築と検証が重要である。この科目では、サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査実施方法、調査データの整理法等について学ぶとともに、自らの関心に基づいて、実際に簡単な調査を実施することで、より深い理解に到達することを目標としている。

この授業では、受講生同士で小グループを編成し、調査とその集計・分析にとりくむため、毎回の授業への出席のみならず、授業外の時間を使つての共同作業への参加や、仲間との協調性が強く求められる。

【講義計画】

- 第1回 社会調査の企画・設計
- 第2回 社会調査の実施方法
- 第3回 問題意識の絞り込み
- 第4回 仮説の検討
- 第5回 質問文の作成
- 第6回 調査票の完成
- 第7回 サンプリングの方法
- 第8回 調査の実施手順
- 第9回 調査票の配布と回収
- 第10回 調査データの整理
- 第11回 データ集計の基礎
- 第12回 統計的検定と仮説の検証
- 第13回 分析結果の発表
- 第14回 発表へのコメント
- 第15回 調査報告書の書き方

【成績評価の方法】

出席状況と共同作業への参加度、個別レポートの内容などを総合して評価します。

【教科書】

大谷信介ほか 社会調査へのアプローチ（第2版）ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】

授業前に、テキストの該当する章を読んできてください。次回までに読むページは、各回の授業で指示します。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査実習 01<春集>	
岩田 考	4単位

【講義概要】

この科目は、「社会調査実習I」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得についてのものである。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っていたいただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

1. 調査のテーマ／領域： 1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
2. 調査の内容／概要： 調査票調査によって、主として大学生の「国際化に関する意識」と「人間関係の実態把握」等を計量的に分析する。
3. 調査の範囲／対象： 本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の家族なども対象に加えることも検討している。
4. 主な調査項目： 国際化に関する意識、海外体験、家族関係、友人関係等
5. データ収集（現地調査）の方法： 調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 実査は10月後半ないし11月初旬を目途におこなう。
7. 調査における学生のかかわり／役割： 主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
8. その他の特記事項： 本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることを目指している。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマと異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め20枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著 社会調査へのアプローチ〔第2版〕ミネルヴァ書房

【参考文献】

- 森岡清志編著 2007『ガイドブック社会調査』〔第2版〕日本評論社
- 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社
- 辻大介2008「世代や世相の文化への視座—量的アプローチと質的アプローチ」—南田勝也・辻泉編著『文化社会学の視座』ミネルヴァ書房
- ハンス・ザイゼル 2005『数字で語る—社会統計学入門—』新曜社
- ※その他、講義中に適宜紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】

ほぼ毎回調査の進捗状況にあわせて課題を出しますので、指示にしたがって、個人およびグループで作業をしてきてください。

- ・02～07生は読替一覧参照

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会調査実習 02<春集>	
大倉季久	4単位

【講義概要】

この科目は、「データ解析実習」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得についてのものである。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8,000字以上の調査報告レポートが単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

1. 調査のテーマ/領域：1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
2. 調査の内容/概要：調査票調査によって、主として大学生の「政治意識」と「消費文化」を計量的に分析する。
3. 調査の範囲/対象：本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の家族なども対象に加えることも検討している。
4. 主な調査項目：若者の政治意識、消費生活、環境問題に対する意識、友人関係等。
5. データ収集（現地調査）の方法：調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：実査は5月の中旬、ないし中旬を目途に行う。
7. 調査における学生のかかわり/役割：主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
8. その他特記事項：本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることをめざしている。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマとは異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め20枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】

授業時間内に各自が設定した個々の調査テーマについて深く議論する機会は限られてくると思われるので、日ごろから文献の精読、新聞記事の検索、テーマにかかわる現場への参画等の作業を通して、テーマに関するリアリティをより豊かなものにしていくことを求める。そうした日々の作業の蓄積が、充実した報告書の完成には不可欠である。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会調査実習 03<秋集>	
阪口祐介	4単位

【講義概要】

この科目は、「社会調査実習I」の単位取得者を対象に、そこで提出された調査計画書に基づいて、実際にデータを収集・分析することを課題とし、社会調査に関する深い知識と技法の習得についてのものである。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成にまでいたる調査の全過程の体験実習は、この科目によって完結すると思っただきたい。問題構成や仮説を検証する手続きが妥当であること、SPSSおよびエクセルを使いこなせること、分析結果の解釈が妥当であることなどが評価の重要なポイントである。

なお、8000字以上の調査報告レポートが、単位認定のために必須なものとなる。勉学への努力を惜しまない学生諸君の受講を期待する。

【講義計画】

1. 調査のテーマ/領域：1994年度より実施している「大学生の生活と意識」調査を継続して実施する。
2. 調査の内容/概要：調査票調査によって、主として大学生の「国際化に関する意識」と「人間関係の実態把握」等を計量的に分析する。
3. 調査の範囲/対象：本学学生が主要な対象となるが、比較のために他大学の学生、あるいは学生の家族なども対象に加えることも検討している。
4. 主な調査項目：国際化に関する意識、海外体験、家族関係、友人関係等
5. データ収集（現地調査）の方法：調査票の郵送調査か、場合によって授業時間を利用した集合調査によってデータを収集する。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：実査は10月後半ないし11月初旬を目途におこなう。
7. 調査における学生のかかわり/役割：主役である。主体的に調査設計・データ収集・分析にかかわることが重要である。
8. その他の特記事項：本学では、参加学生が主体的に調査に取り組むことで、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスをすべて学習させることを目指している。そのため、参加学生によっては、若干上記のテーマとは異なる場合があることなどもご了解願いたい。

【成績評価の方法】

実習活動への参加（毎回の出席は最低条件）と、小レポートなどの提出物、発表内容、報告書の論文（400字詰め20枚程度以上）によって評価する。

【教科書】

大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ [第2版]』ミネルヴァ書房

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会調査特講－質的調査法 <春>	
木島 由 晶	2単位

【講義概要】

質的調査法の種類と実例について、それぞれの技法の特徴や調査実施上の倫理など、基礎的知識について実践的に学ぶ。

【学習目標】

調査の企画から報告書の作成まで、質的調査の方法について具体的に学ぶとともに体験実習を通して理解を深める。

授業は「社会調査実習」を履修している者、履修した者を念頭におこなう。授業は受講生個人またはグループ単位で、調査を実施しつつ進める。授業への出席のみならず、授業時間外にも作業は必要となるし、グループの連携性・協調性が求められる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 聞き取り調査の技法と実践①
- 第3回 聞き取り調査の技法と実践②
- 第4回 聞き取り調査の技法と実践③
- 第5回 聞き取り調査の技法と実践④
- 第6回 ドキュメント分析の技法と実践①
- 第7回 ドキュメント分析の技法と実践②
- 第8回 ドキュメント分析の技法と実践③
- 第9回 ドキュメント分析の技法と実践④
- 第10回 参与観察法の技法と実践①
- 第11回 参与観察法の技法と実践②
- 第12回 参与観察法の技法と実践③
- 第13回 参与観察法の技法と実践④
- 第14回 全体講評

【成績評価の方法】

出席状況・授業時の態度及びレポートの結果を総合して評価する。詳細については最初の授業の際に説明する。

【教科書】

大谷 信介, 後藤 範章, 永野 武, 木下 栄二, 小松 洋『社会調査へのアプローチ [第2版]』

【備考】

【準備学習の指示】

授業の性質上、時間外の学習の重要性は高い。課題の選出、選んだ課題についての取り組み方などについてのディスカッション、プレゼンテーションの作成と発表の練習など、講義の進行状況に合わせた学習活動を、学生主体でおこなってもらいたいと望んでいる。

科目名 クラス 講義区分	
社会調査特講－統計解析法 01<春>	
阪口 祐 介	2単位

【講義概要】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識について説明する。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

【学習目標】

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、社会調査士資格の取得を目指している者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピュータも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 1 基本統計量 (算術平均、分散、標準偏差、偏差値)
- 第2回 2 確率論基礎① (確率の発想と二項分布)
- 第3回 3 確率論基礎② (正規分布と中心極限定理)
- 第4回 4 統計的推定とサンプリング理論
- 第5回 5 統計的検定の理論 (比率の差の検定)
- 第6回 6 量的変数と質的変数 (分析手法の概観)
- 第7回 7 質的変数と量的変数との関連① (平均値の差の検定)
- 第8回 8 質的変数と量的変数との関連② (分散分析、F検定)
- 第9回 9 質的変数と質的変数との関連① (クロス表の見方と属性相関係数)
- 第10回 10 質的変数と質的変数との関連② (独立性の χ^2 検定)
- 第11回 11 質的変数と質的変数との関連③ (第3変数の導入、エラボレーション)
- 第12回 12 量的変数と量的変数との関連① (回帰分析の基礎)
- 第13回 13 量的変数と量的変数との関連② (ピアソンの積率相関係数)
- 第14回 14 量的変数と量的変数との関連③ (第三変数の導入、偏相関係数)
- 第15回 15 多変量解析法の概観 (重回帰分析と因子分析の基礎)

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%
最終試験のほか、出席点および数回行なう予定の小テストの得点も加味する。詳細は、最初の講義にて説明する。

【参考文献】

P・G・ホーエル (浅井・村上訳)『初等統計学』培風館
得津一郎『はじめの統計』有斐閣ブックス
芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
原純輔・海野道郎『社会調査演習 (第2版)』東京大学出版会
ジョエル・ベスト (林訳)『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会調査特講－統計解析法 02<秋>	
木下栄二	2単位

【講義概要】

本講義では、現在の社会調査の主流をなす調査票調査によって得られたデータに対する統計的解析法の基礎知識について説明する。コンピュータの発達によって、誰でも手軽に複雑な分析を行えるようになってきたが、その結果を正しく読み解くためには、統計学や確率論に関する基礎知識とデータの特性に合わせた分析技法の習得が必須である。

【学習目標】

ここでの主要な習得課題は、集団と集団を比較するための基本統計量、確率論の基礎、特に正規分布に対する理解、統計的推定・統計的検定の考え方、量的変数と質的変数の区分とその分析法、そして2変数間の関連の見方を越えた3変数以上の関連をみるための基礎知識などである。

授業は、社会調査士資格の取得を目指している者を念頭に行う。文科系の学生にはややハードなものになるかも知れない。適宜、コンピューターも使用するが、原則としては手計算によって、統計解析の理論を身につけてもらいたいと考えている。

【講義計画】

- 第1回 1 基本統計量（算術平均、分散、標準偏差、偏差値）
- 第2回 2 確率論基礎①（確率の発想と二項分布）
- 第3回 3 確率論基礎②（正規分布と中心極限定理）
- 第4回 4 統計的推定とサンプリング理論
- 第5回 5 統計的検定の理論（比率の差の検定）
- 第6回 6 量的変数と質的変数（分析手法の概観）
- 第7回 7 質的変数と量的変数との関連①（平均値の差の検定）
- 第8回 8 質的変数と量的変数との関連②（分散分析、F検定）
- 第9回 9 質的変数と質的変数との関連①（クロス表の見方と属性相関係数）
- 第10回 10 質的変数と質的変数との関連②（独立性の χ^2 検定）
- 第11回 11 質的変数と質的変数との関連③（第3変数の導入、エラボレーション）
- 第12回 12 量的変数と量的変数との関連①（回帰分析の基礎）
- 第13回 13 量的変数と量的変数との関連②（ピアソンの積率相関係数）
- 第14回 14 量的変数と量的変数との関連③（第三変数の導入、偏相関係数）
- 第15回 15 多変量解析法の概観（重回帰分析と因子分析の基礎）

【成績評価の方法】

試験 90% 出席 10%
最終試験のほか、出席点および数回行なう予定の小テストの得点も加味する。詳細は、最初の講義にて説明する。

【参考文献】

P・G・ホーエル（浅井・村上訳）『初等統計学』培風館
得津一郎『はじめての統計』有斐閣ブックス
芝村良『R.A.フィッシャー統計理論』九州大学出版会
原純輔・海野道郎『社会調査演習（第2版）』東京大学出版会
ジョエル・ベスト（林訳）『統計はこうしてウソをつく だまされないための統計学入門』白揚社

【備考】

【準備学習の指示】

文化系学生には苦手な科目かも知れない。社会調査A,Bのテキストの該当箇所、および参考文献に事前に目を通しておくことが望ましい。また、理解促進のために、ほぼ毎回宿題を出すので、必ずやってくるように。

科目名 クラス 講義区分	
社会病理学 <通期>	
畠中宗一	4単位

【講義概要】

社会病理現象を臨床社会学の視点から概説する。現代社会は、毎日のようにさまざまな事件が報道される。それぞれの事件は、その背景を読み解いていくと、社会システムと家族システム、あるいは社会システムと個人システム、さらには個人システムとそのサブシステムの交差領域で、せめぎ合う関係が生じ、そのせめぎ合う関係に適切に対応できないことが、社会病理現象として顕現している。これらの関係を臨床社会学の視点から理解を深める。

【学習目標】

社会病理学を臨床社会学として展開する。臨床社会学は、社会病理学が固有に内在させてきた問題意識を、介入プロセスを視野に入れた社会学の行為として特化させた領域である。社会病理現象を臨床社会学的アプローチによって問題解決を志向する方法を学習する。

臨床社会学の特徴の第一は、介入プロセスの採用にある。第二は、生物学的・心理学的・社会学のアプローチの相互作用である。第三は、ミクロ・メゾ・マクロ水準の相互作用である。第二と第三の相互作用のなかで、病理現象の全体像を析出し、問題解決のための見取り図を描き、実際の介入によって、問題を解決していく営為が、臨床社会学の方法である。本講義では、ミクロ・メゾ水準の社会病理現象を素材に取上げ、臨床社会学的アプローチの実際を学習する。

【講義計画】

- 第1回 富裕化社会の諸特徴(1)
- 第2回 富裕化社会の諸特徴(2)
- 第3回 富裕化社会の諸命題(1)
- 第4回 富裕化社会の諸命題(2)
- 第5回 富裕化社会と対人関係(1)
- 第6回 富裕化社会と対人関係(2)
- 第7回 対人関係という現象(1)
- 第8回 対人関係という現象(2)
- 第9回 対人関係という現象(3)
- 第10回 富裕化社会と対人関係トレーニング(1)
- 第11回 富裕化社会と対人関係トレーニング(2)
- 第12回 対人援助職と対人関係トレーニング(1)
- 第13回 対人援助職と対人関係トレーニング(2)
- 第14回 自己への関心から他者への誠実な関心へ(1)
- 第15回 自己への関心から他者への誠実な関心へ(2)
- 第16回 臨床社会学の方法(1)
- 第17回 臨床社会学の方法(2)
- 第18回 摂食障害(1)
- 第19回 摂食障害(2)
- 第20回 摂食障害(3)
- 第21回 アルコール依存症(1)
- 第22回 アルコール依存症(2)
- 第23回 アルコール依存症(3)
- 第24回 子ども虐待(1)
- 第25回 子ども虐待(2)
- 第26回 子ども虐待(3)
- 第27回 老人虐待(1)
- 第28回 老人虐待(2)
- 第29回 老人虐待(3)
- 第30回 自分らしさの復権

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 60% 出席 20%
前期および後期にレポートを提出。試験は、授業中に数回、課題に回答。

【教科書】

畠中宗一 富裕化社会に、なぜ対人関係トレーニングが必要か ぎょうせい
前期使用
畠中宗一・清水新二・広瀬卓爾編 社会病理学講座第4巻 社会病理学と臨床社会学 学文社
後期使用

【参考文献】

畠中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社
畠中宗一『家族支援論』世界思想社

【備考】

社会病理現象の多発化は、現代社会の生きにくさと無縁ではない。社会病理学の学習は、自分らしさをどのように維持・確保していくか、を考えていくことでもある。

科目名	クラス	講義区分
社会福祉援助技術演習B		
梓 大川 塩 武 鶴 村 森	川 垣 東 田 江 本	一 美 子 子 史 昇 昇 芳 光 祥 祐 宏
		01 <春集> 02 <春集> 03 <春集> 04 <春集> 05 <春集> 06 <春集> 07 <春集> 08 <春集>
		4 単位

【講義概要】

実習後の社会福祉援助技術演習Bでは、ソーシャルワーク実習での体験を振り返り、これまで学習した講義や演習などと関連させ、社会福祉専門職として実践に必要な援助（支援）活動のための基本的態度・知識・技術・視点を総合的かつ統合的に養うことを目的とする。
実習を通しての事例を取り上げ、援助プロセスに沿って課題を整理、分析することを通じて、相談援助にかかる知識や技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう集団指導または個別指導する。

【学習目標】

他の講義や社会福祉フィールドワーク・社会福祉援助技術演習Aで学んだ内容を、実習体験を振り返ることによって、自らの中で統合し考察を深め、実践的な知識と技術を習得できる。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（社会福祉援助技術演習Bの目的と方法）
 第2回 実習を振り返り、実習からの事例を各自まとめる
 第3回 実習事例を発表
 第4回 〃
 第5回 事例研究の題材として、事例を選択し、課題を明確にし、まとめなおす グループディスカッション
 第6回 〃
 第7回 事例研究1 相談援助の過程（インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、効果測定、終結とアフターケア）に沿って検討する
 また、事例によって、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワークワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関して検討する
 地域福祉の実習事例については、地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワークワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価を中心に検討する
 1事例につき4コマ 4～5人のグループに分け、事例の発表・グループディスカッション・報告（またはロールプレイによる発表）・全体での振り返り
 第8回 〃
 第9回 〃
 第10回 〃
 第11回 〃 2
 第12回 〃
 第13回 〃
 第14回 〃
 第15回 〃 3
 第16回 〃
 第17回 〃
 第18回 〃
 第19回 〃 4
 第20回 〃
 第21回 〃
 第22回 〃
 第23回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
 第24回 基本的なコミュニケーション技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
 第25回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価① グループワーク及び個別指導
 第26回 基本的な面接技術の習得の振り返りと自己評価② グループワーク及び個別指導
 第27回 自己覚知① グループワーク及び個別指導
 第28回 自己覚知② グループワーク及び個別指導
 第29回 まとめ
 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加状況、レポート等の提出物により総合的に評価する。

【参考文献】

授業時にお伝えします。

【備考】

・02～05生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ		
岡 阪 塩 高 長 藤 森 丸 安 乾	井 野 田 山 谷 田 山 原	淳 治 学 子 治 弘 満 久 子 子 雄
		01 <通期> 02 <通期> 03 <通期> 04 <通期> 05 <通期> 06 <通期> 07 <通期> 08 <通期> 09 <通期> 10 <通期>
		2 単位

【講義概要】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力技術を習得する。

【学習目標】

- 1 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 2 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 3 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的な内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

【参考文献】

授業時指定する。

【備考】

【準備学習の指示】
 少人数クラスで授業が進行するので、各クラスで出される課題に十分な準備をして臨むこと

さ
行

科目名 クラス 講義区分		
社会福祉援助技術現場実習Ⅲ		
岡井淳治 郭理恵 塩田祥子 川井太加子 黒田隆之 根本嘉昭 福本教文 松端克文 原田佳哉	01<通期> 02<通期> 03<通期> 04<通期> 05<通期> 06<通期> 07<通期> 08<通期> 09<通期> 10<通期>	2単位

【講義概要】

- 1 社会福祉の現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「心構え」、「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
- 2 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、介護を必要とする老人や障害者等に対する「相談援助業務」に必要となる資質・能力技術を習得する。

【学習目標】

- 1 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた態度・行動ができるようにする。
- 2 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 3 関連分野の専門職との連携のあり方や共同して業務を進行していくうえでの具体的内容・方法を理解する。

【講義計画】

- 1 配属実習オリエンテーション
- 2 専門援助技術実技指導
- 3 面接実技指導
- 4 記録実技指導
- 5 評価・効果測定実技指導
- 6 配属実習
- 7 実習記録に基づく実習の総括レポートの作成
- 8 レポートに基づく個別指導
- 9 全体総括会

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）が条件であり、実習ノート、実習レポート、実習研究報告・総括会、実習先評価を総合的に判断し、評価する。

【教科書】

授業時指定する。

【参考文献】

授業時指定する。

【備考】

【準備学習の指示】

少人数クラスで授業が進行するので、各クラスで出される課題に十分な準備をして臨むこと

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉行財政論 <秋>	
柴田幹男	2単位

【講義概要】

- 1 社会福祉の主要な分野（介護、障害、生活保護等）における制度概要の説明やその問題点等を指摘し、今後の課題を考察する知識の習得と問題点の認識を深める
- 2 1に関連する行財政制度の概要説明やその問題点を指摘し、社会福祉を支える行政・財政の現状と課題、将来展望等を考察する

【学習目標】

- 1 社会福祉諸制度のみならず、それらを支える行財政制度に関する知識の習得と問題点の認識を深める
- 2 講師が体験した、地方自治体における社会福祉行財政の実態の紹介等を通じながら社会福祉行財政の現状や今後の課題についての主体的な問題意識の醸成を図る

【講義計画】

- 第1回 講義の目的や方法、学習姿勢等に関する全般的なオリエンテーション
- 第2回 介護保険制度の概要や今日的な問題点
- 第3回 同上
- 第4回 介護保険事業の現状を踏まえつつ、中央政府・地方政府の適切な役割分担（地方分権の推進）のあり方等について
- 第5回 同上
- 第6回 障害者自立支援制度の概要や問題点（法施行後の問題点、障害者権利条約等）
- 第7回 同上
- 第8回 障害者自立支援制度の現状を踏まえつつ、我国の統治の基本的な仕組み、立法機能と行政機能の適切な役割分担（民意に立脚した社会福祉制度の構築）等について
- 第9回 同上
- 第10回 生活保護制度の概要や問題点
- 第11回 同上
- 第12回 生活保護制度の現状を踏まえつつ、我国の中央・地方を通じた財政の現状と問題点（財政赤字や長期債務の累増等）について
- 第13回 同上
- 第14回 まとめ（社会保障の給付と負担、潜在的国民負担率等の将来予測を踏まえつつ、我国の社会福祉行財政の持続可能性等について）
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% 出席 30%

【参考文献】

プリントを配付する

【備考】

準備学習の指示

特別の準備学習の必要は無いが講義テーマに関する資料や報道ニュースに関心を持って眼を通し、主体的な問題意識を持つよう努力すること

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉計画論A <春>	
岡田 忠 克	2単位

【講義概要】

社会福祉計画論Aでは、社会福祉の実施体制における福祉行財政と福祉計画をとりあげる。まず、福祉行財政については、国・都道府県・市町村のそれぞれの役割や国と地方の関係を概観した上で、福祉行政の機関（福祉事務所・児童相談所・身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所）の役割をみていく。次に、福祉計画については、各分野ごとや地域福祉計画といった各種の福祉計画の意義と目的を概説した上で、福祉計画の主体と方法およびそれらの実際をみていく。とりわけ、住民参加の意義と留意点を説明する。

【学習目標】

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ・福祉行財政の実施体制（国と地方自治体の役割、関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。
- ・福祉行財政の実際について理解する。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 福祉行政の歴史① 福祉国家の形成
- 第3回 福祉行政の歴史② 行政国家の形成
- 第4回 福祉行政の歴史③ 福祉国家の見直しと日本型福祉社会
- 第5回 福祉行政の実施体制Ⅰ 国と都道府県の役割
- 第6回 福祉行政の実施体制Ⅱ 市町村の役割と国と地方の関係①
- 第7回 福祉行政の実施体制Ⅲ 市町村の役割と国と地方の関係②
- 第8回 福祉行政の実施体制Ⅳ 福祉の財源 国レベル
- 第9回 福祉行政の実施体制Ⅴ 福祉の財源 地方レベル
- 第10回 福祉行政の実施体制Ⅵ 福祉行政の組織及び団体の役割 官と民の関係①
- 第11回 福祉行政の実施体制Ⅶ 福祉行政の組織及び団体の役割 官と民の関係②
- 第12回 福祉行政の実施体制Ⅷ 福祉行政における専門職の役割①
- 第13回 福祉行政の実施体制Ⅷ 福祉行政における専門職の役割②
- 第14回 福祉行財政の動向 データでみる福祉行財政の実際
- 第15回 福祉行政の実施体制ーまとめ

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

【教科書】

テキストは使用せず、プリントを配布する。

【備考】

- ・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉計画論B <秋>	
岡田 忠 克	2単位

【講義概要】

社会福祉計画論Bでは、福祉計画について、各分野ごとや地域福祉計画といった各種の福祉計画の意義と目的を概説した上で、福祉計画の主体と方法およびそれらの実際をみていく。とりわけ、住民参加の意義と留意点を説明する。

【学習目標】

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕

- ・福祉行財政の実施体制（国と地方自治体の役割、関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。
- ・福祉行財政の実際について理解する。
- ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

【講義計画】

- 第1回 福祉計画と公共哲学Ⅰ
- 第2回 福祉計画と公共哲学Ⅱ
- 第3回 福祉計画と公共哲学Ⅲ
- 第4回 福祉計画の意義と目的Ⅰ・福祉計画の概要
- 第5回 福祉計画の意義と目的Ⅱ・福祉計画における住民参加の意義
- 第6回 福祉計画の意義と目的Ⅲ・福祉行財政と福祉計画の関係
- 第7回 福祉計画の主体と方法Ⅰ・福祉計画の主体と種類
- 第8回 福祉計画の主体と方法Ⅱ・福祉計画の策定過程
- 第9回 福祉計画の主体と方法Ⅲ・福祉計画の策定方法と留意点
- 第10回 福祉計画の主体と方法Ⅳ・福祉計画の評価方法
- 第11回 福祉計画の実際Ⅰ・高齢者福祉
- 第12回 福祉計画の実際Ⅱ・障がい者福祉
- 第13回 福祉計画の実際Ⅲ・子ども家庭福祉
- 第14回 福祉計画の実際Ⅳ・地域福祉
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

【備考】

- ・02～08生は読替一覧参照

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉原論A <春>	
根本 嘉昭	2単位

【講義概要】

福祉政策とは何か、この問いに対する答えはいろいろな切り口があつて、簡単ではありません。人が生活していくうえでの困難に対する社会的な仕組みとして福祉政策をとらえ、その歴史的経緯・発展を前提にして、福祉政策の理念・哲学、福祉政策・制度のあり方、福祉政策を実践するものとしての支援活動の知識・技術など、さまざまな側面から考察していきます。社会福祉原論A及び社会福祉原論Bの講義概要と学習目標を共通のものとして、それを春学期と秋学期に分けて追究していきます。

【学習目標】

- 福祉政策の歴史について理解する。
- 福祉の理念・価値・哲学について理解する。
- 福祉政策の範囲・対象について理解する。
- 社会福祉の制度・政策について理解する。
- 福祉サービスに関する技術的側面について理解する。
- 現在の福祉政策の課題について理解する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代社会における福祉制度と福祉政策(1)
- 第3回 現代社会における福祉制度と福祉政策(2)
- 第4回 福祉政策の思想・理念・哲学
- 第5回 福祉政策の理論とその体系
- 第6回 福祉政策の歴史(1)
- 第7回 福祉政策の歴史(2)
- 第8回 福祉政策の歴史(3)
- 第9回 社会福祉基礎構造改革
- 第10回 福祉政策におけるニーズと資源
- 第11回 福祉政策の主体
- 第12回 福祉政策の手法
- 第13回 福祉政策の関連領域(1)
- 第14回 福祉政策の関連領域(2)
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会 現代社会と福祉—社会福祉原論 中央法規

【参考文献】

授業中、必要に応じて紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】

テキストはかなり内容が難しいと思います。予習・復習を十分するように期待します。

・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉原論B <秋>	
根本 嘉昭	2単位

【講義概要】

福祉政策とは何か、この問いに対する答えはいろいろな切り口があつて、簡単ではありません。人が生活していくうえでの困難に対する社会的な仕組みとして福祉政策をとらえ、その歴史的経緯・発展を前提にして、福祉政策の理念・哲学、福祉政策・制度のあり方、福祉政策を実践するものとしての支援活動の知識・技術など、さまざまな側面から考察していきます。社会福祉原論A及び社会福祉原論Bの講義概要と学習目標を共通のものとして、それを春学期と秋学期に分けて追究していきます。

【学習目標】

- 福祉政策の歴史について理解する。
- 福祉の理念・価値・哲学について理解する。
- 福祉政策の範囲・対象について理解する。
- 社会福祉の制度・政策について理解する。
- 福祉サービスに関する技術的側面について理解する。
- 現在の福祉政策の課題について理解する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 福祉政策と社会福祉制度
- 第3回 社会福祉制度の体系(1)
- 第4回 社会福祉制度の体系(2)
- 第5回 社会福祉制度と福祉サービス
- 第6回 福祉サービスの提供と利用のシステム(1)
- 第7回 福祉サービスの提供と利用のシステム(2)
- 第8回 福祉政策と援助活動(1)
- 第9回 福祉政策と援助活動(2)
- 第10回 福祉政策と援助活動(3)
- 第11回 諸外国の福祉政策(1)
- 第12回 諸外国の福祉政策(2)
- 第13回 諸外国の福祉政策(3)
- 第14回 福祉政策の課題
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会 現代社会と福祉—社会福祉原論 中央法規

【参考文献】

授業中、必要に応じて紹介します。

【備考】

【準備学習の指示】

テキストはかなり内容が難しいと思います。予習・復習を十分するように期待します。

・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉サービス論A <春>	
松 端 克 文	2単位

【講義概要】

社会福祉サービスに関する基本的な捉え方、社会福祉サービス提供の組織や団体の種類や特徴、社会福祉サービス組織の経営と運営管理の方法などについて理解することで、社会福祉サービスの全体像について把握し、その組織の経営や運営管理の手法、サービス提供の方法についての理解を深める。

【学習目標】

- ①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。
- ②福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
- ③福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

【講義計画】

- 第1回 社会福祉サービスの捉え方①福祉サービスとは
- 第2回 社会福祉サービスの捉え方②福祉サービスと制度
- 第3回 社会福祉サービスに係る組織や団体の概要①全体像の把握、法人組織とは
- 第4回 社会福祉サービスに係る組織や団体の概要②社会福祉法人
- 第5回 社会福祉サービスに係る組織や団体の概要③特定非営利活動法人
- 第6回 社会福祉サービスに係る組織や団体の概要④医療法人、営利法人、市民団体、自治会など
- 第7回 社会福祉サービスの組織と経営の基礎理論①戦略と事業計画
- 第8回 社会福祉サービスの組織と経営の基礎理論②組織
- 第9回 社会福祉サービスの組織と経営の基礎理論③運営管理の基礎理論
- 第10回 社会福祉サービスの運営管理の方法①サービス管理-1 サービスの質の評価
- 第11回 社会福祉サービスの運営管理の方法①サービス管理-2 苦情解決とリスクマネジメント
- 第12回 社会福祉サービスの運営管理の方法②人事管理と労務管理
- 第13回 社会福祉サービスの運営管理の方法③会計管理と財務管理
- 第14回 社会福祉サービスの運営管理の方法④情報管理
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 0% 出席 20%

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉サービスの組織と経営中央法規

【備考】

準備学習
シラバスを確認の上、テキストの該当箇所もしくは関連する箇所を中心に予習と復習をすること。
・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉サービス論B <秋>	
松 端 克 文	2単位

【講義概要】

本講では、社会福祉サービスAの内容をふまえ、社会福祉サービスとソーシャルワークとの関係や社会福祉サービスのなかでも特に社会福祉施設における福祉サービスに焦点を絞り講義する。

社会福祉施設の職員が（大学で学んだ知識や技術を活かして）ソーシャルワーク実践の場としての社会福祉施設において実践していくべき支援・サービスの方向を地域福祉の観点もふまえて明らかにしていく。

【学習目標】

- ①社会福祉サービスとソーシャルワークとの関係について理解する
- ②社会福祉サービスと地域福祉との関係について理解する
- ③社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践の内容や方法について理解する
- ④社会福祉サービス提供における個別支援計画の考え方や書き方について理解する

【講義計画】

- 第1回 社会福祉サービスとソーシャルワーク①ソーシャルワーク理論の理解
- 第2回 社会福祉サービスとソーシャルワーク②ジェネラリストソーシャルワーク
- 第3回 社会福祉施設の概要—歴史、制度体系と種別、利用者数など—
- 第4回 社会福祉施設サービス・運営の仕組みと課題
- 第5回 ノーマライゼーションの思想と脱施設化、地域生活移行
- 第6回 介護保険法と社会福祉施設
- 第7回 障害者自立支援法と社会福祉施設
- 第8回 社会福祉施設・社会福祉サービスと地域福祉①地域福祉の理論
- 第9回 社会福祉施設・社会福祉サービスと地域福祉②地域福祉の実践
- 第10回 社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践と地域福祉実践
- 第11回 個別支援計画の考え方と書き方①個別支援計画とは
- 第12回 個別支援計画の考え方と書き方②アセスメントとプランニング
- 第13回 個別支援計画の考え方と書き方③評価
- 第14回 社会福祉施設のサービス評価、苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 0% 出席 20%

【教科書】

松端克文 障害者の個別支援計画の考え方・書き方 日総研出版

【備考】

準備学習
シラバスを確認の上、テキストの該当箇所もしくは関連する箇所を中心に予習と復習をすること。
・02～08生は読替一覧参照

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－ソーシャルワーク[編入生用] <春>	
福 田 公 教	2 単 位

【講義概要】

社会福祉特講－ソーシャルワークでは、これまで学んできたソーシャルワークの知識をもとに、社会福祉実践の基礎となるソーシャルワークを体系的に理解し、社会福祉専門職の援助の基本となる価値・知識・技術を学ぶ。とりわけ、ジェネラリストソーシャルワークの現代的意義を問い直す。そのプロセスでソーシャルワークの援助過程を学び、その理解を深めるために理論と平行して、事例により、ソーシャルワークの実際を学ぶ。

【学習目標】

これまで学んできたソーシャルワークを基礎とし、社会福祉専門職に求められる価値・知識・技術を習得する。

【講義計画】

- 第1回 これまで学んできたソーシャルワークの確認
- 第2回 ソーシャルワークの現代的意義
- 第3回 ソーシャルワークの定義と構成要素
- 第4回 ソーシャルワークの援助関係
- 第5回 ソーシャルワークにおける価値と倫理
- 第6回 ソーシャルワークの成立と発展
- 第7回 ソーシャルワークのアプローチ
- 第8回 ソーシャルワークの援助過程①
- 第9回 ソーシャルワークの援助過程②
- 第10回 ソーシャルワークの援助過程③
- 第11回 ソーシャルワーク面接の構造
- 第12回 ソーシャルワーク面接の技法
- 第13回 スーパービジョン
- 第14回 ソーシャルワークの隣接領域
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 30% 出席 70%

【教科書】

大塚達雄他編 ソーシャル・ケースワーク論 ミネルヴァ書房

【備考】

【準備学習の指示】

テキストの通読やキーワード等について、予習復習が必要となる。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－発達障害者支援 <秋>	
郭 麗 月	2 単 位

【講義概要】

近年、教育、医療、福祉、司法など広い領域で話題となってきている「発達障害」について正しい知識を得て、支援のあり方について学ぶ。

【学習目標】

「発達障害」の概念、歴史、現状、施策を学び、支援方法について知る。

【講義計画】

- 第1回 発達障害とは？
- 第2回 発達障害支援法、特別支援教育とは？
- 第3回 広汎性発達障害の概念
- 第4回 広汎性発達障害者への対応(1)幼児期・学童期
- 第5回 " (2)思春期・青年期
- 第6回 " (3)成人期
- 第7回 高機能広汎性発達障害者への対応
- 第8回 ADHDの概念
- 第9回 ADHDへの対応
- 第10回 学習障害の概念
- 第11回 学習障害への対応
- 第12回 高次脳機能障害とは？
- 第13回 発達障害と医療
- 第14回 発達障害と福祉

【成績評価の方法】

レポート 100%

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜紹介する。

【備考】

提示した参考文献などを読んでおくこと。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－ボランティアコーディネート論 <秋>	
脇坂博史	2単位

【講義概要】

市民社会の構築へのさまざまな活動において、「コーディネーション機能」は不可欠といえます。その中で、ボランティア活動に関わるグループメンバーへの介入、調整、リスクマネジメントなどを、コーディネーターの視点で実践的に学習します。

【学習目標】

グループ活動の運営、発達、場合によっては解散までの過程を、コーディネイトするための理論、手法を中心に、関わり方について学習します。特に、多様な状況変化に、臨機応変に対応することの重要性が理解できることを目的とします。

【講義計画】

- 第1回 ボランティア活動に関わるキーワード
- 第2回 市民社会とコーディネーション(1)
- 第3回 市民社会とコーディネーション(2)
- 第4回 ボランティアコーディネーションの視点(1)
- 第5回 ボランティアコーディネーションの視点(2)
- 第6回 ボランティアコーディネーターの役割(1)
- 第7回 ボランティアコーディネーターの役割(2)
- 第8回 ボランティアコーディネーター基本指針を理解する(1)
- 第9回 ボランティアコーディネーター基本指針を理解する(2)
- 第10回 グループへの介入
- 第11回 パーソナリティの生涯発達とグループワーク(1)
- 第12回 パーソナリティの生涯発達とグループワーク(2)
- 第13回 グループの発達を理解する(1)
- 第14回 グループの発達を理解する(2)

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
(授業への主体的な参加姿勢を重視します)

【教科書】

授業においてレジュメを配布します

【参考文献】

『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』編：日本ボランティアコーディネーター協会 発行：筒井書房 2009年初版
『グループワーク 理論とその導き方』著：大利一雄 発行：勁草書房 2003年初版

【備考】

【準備学習の指示】

ボランティア活動のコーディネートを学ぶ前提として、①自身がボランティア活動を経験しておくこと。②その活動内容を3分間で人に伝えられるようにしておくこと。③ボランティア活動を通して得たものを話せるようにしておくこと。④ボランティア活動関連図書を少なくとも1冊は読んでおくこと。

ボランティア活動は、何よりも自発性が大切です。ボランティアコーディネートへの自身の課題を明確にしながら、積極的に取り組む姿勢を大切にしてください。

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉特講－マスコミから見た福祉課題 <秋>	
郭麗月	2単位

【講義概要】

読売新聞社による寄付講座。
読売新聞社大阪本社もしくは東京本社の現役ジャーナリストによるリレー講義
現代日本の福祉課題に関する分析と解説。
本年度の講義内容及び担当者は調整中。

下記は08年度計画（参考までに記載）

【学習目標】

日本の福祉課題を現実の社会問題を通して学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「ホームレス」
- 第2回 山畑洋二：大阪本社生活情報部主任
「NPOとボランティア」
- 第3回 小牧規子：大阪本社編集委員
「男女協働参画の視点で福祉を考える」
- 第4回 猪熊律子：東京本社社会保障部次長
「日本と欧州の社会保障制度」
- 第5回 前野一雄：東京本社医療情報部長
「医療・健康メディアの役割」
- 第6回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「日本の医療が抱える課題」
- 第7回 小畑洋一：東京本社社会保障部長
「人口減・超高齢社会の課題」
- 第8回 仲館聡子：大阪本社生活情報部
「介護職の今」
- 第9回 山岸徹也：大阪本社社会部次長
「貧困について」
- 第10回 前野一雄：東京本社医療情報部長
「医療サービスの今後」
- 第11回 森 克二：大阪本社社会部長
「司法の現場から見た福祉課題」
- 第12回 原 昌平：大阪本社科学部次長
「日本の精神医療・福祉」
- 第13回 小牧規子：大阪本社編集委員
「少子化と子育て支援」
- 第14回 小牧規子：大阪本社編集委員
「総括」

【成績評価の方法】

試験 100%
毎授業でのコメントシートの提出
欠席5回で受験資格なし
期間内試験

【参考文献】

毎日の新聞に目を通す習慣をつけること。

【備考】

講義のテーマに関連した新聞記事等を自ら探して読んでおくこと。
・インテグレーション科目
・02～09生は読替一覧参照

さ
行

科目名	クラス	講義区分
社会福祉発達史 [2] <秋>		
木村 和世	2単位	

【講義概要】

明治期の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。福祉史を身近なものとして把握するために、南河内地方の農村や新聞記者の目を通した大阪の町の変遷や路地裏に生きる人々の生活をみていく。戦時下ではいかに人々が戦争に組み込まれていったかを福祉の視点からみていく。

【学習目標】

福祉史は単に過去の出来事を勉強するだけでなく、現在を見る眼を養っていくことでもある。とくに格差社会と呼ばれる現代に生きるあなたがたから見て福祉というものはどういうものとして社会のなかに取り入れられてきたのか、その原点はどこにあったのか、ということなどに留意して学習してもらいたい。

【講義計画】

- 第1回 明治期の恤救規則
南河内の村々と貧困の実相
- 第2回 資本主義の成立と社会問題の発生
底辺の人々と救済事業
- 第3回 資本主義の展開と労働争議の頻発
- 第4回 ロシア革命と日本への波及
キリスト教社会主義の人々
- 第5回 大正期—都市リベラリズムの光と影
- 第6回 大阪の近代と新聞社による社会事業
社会連帯主義と本山彦一
- 第7回 賀川豊彦と大阪毎日新聞記者・村嶋歸之
- 第8回 米騒動と方面委員制度
- 第9回 社会事業から厚生事業へ
救護法の成立
関東大震災と労働運動の分裂
- 第10回 厚生省の発足
国民健康保険の創設
- 第11回 1945年の大阪
戦後の混乱と人々の生活
- 第12回 戦後の社会福祉の展開
- 第13回 高度経済成長期の福祉
- 第14回 今後への展望

【成績評価の方法】

レポート 40% 出席 30%
レポートについては講義時に指示する
このほか、平常点として30%を入れる。このなかには提出物・小テストも含まれる

【教科書】

木村 和世『路地裏の社会史』昭和堂
・プリントを必要に応じて配布する

【参考文献】

- ・芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』
- ・藤原彰 栗屋憲太郎 吉田裕／編『昭和20年 1945年』
- ・杉原薫 玉井金五／編『大正／大阪／スラム』

【備考】

準備学習の指示
日本近代史の知識を養うために歴史書を読んでおくこと。高校のときの教科書や参考文献などが講義の学習を深めていくと考える。

科目名	クラス	講義区分
社会福祉フィールドワーク		
小柳敬明 黒田隆之 藤原一秀 松尾浩樹	01<通期> 02<通期> 03<通期> 04<通期>	2単位

【講義概要】

社会福祉は、教室の中での学習も大切ですが、実際の福祉現場で対象者や働く人、ボランティアの人たちと関わることからの学びもたくさんあります。

教室での学習、実際の現場での活動、振り返りの一連の流れの中で社会福祉の特性をできるだけ早く理解できるようにこの授業があります。

2年次以降のソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習にも関係する大切な科目です。

【学習目標】

社会福祉の基本である施設などの現場でのボランティアな活動を通して、活動場所を理解し、対象者を理解し、活動内容の理解を深めます。そのために、少なくとも1か月に1度程度実際に活動を行います。

毎回の授業は実際の活動で必要となる対象者や活動の理解のための講義を行います。

【講義計画】

- 第1回 授業の概要と評価、活動ガイダンス(1)
- 第2回 活動ガイダンス(2)
- 第3回 活動ガイダンス(3)
- 第4回 対象者・活動場所の理解(1)児童の理解
- 第5回 対象者・活動場所の理解(2)高齢者の理解
- 第6回 対象者・活動場所の理解(3)障害者の理解
- 第7回 活動のマナーとルール
- 第8回 活動の振り返り(1)
- 第9回 活動の振り返り(2)
- 第10回 活動の振り返り(3)
- 第11回 活動の振り返り(4)
- 第12回 活動の振り返り(5)
- 第13回 活動の振り返り(6)
- 第14回 個人の抱える問題とその対処
- 第15回 春学期の活動の振り返り
- 第16回 夏休み中の活動の報告(グループでの話し合い、全体での報告の準備)
- 第17回 夏休み中の活動の報告(全体での報告)
- 第18回 活動の技術(1)記録のとり方
- 第19回 活動の技術(2)救急法
- 第20回 活動の技術(3)コミュニケーション
- 第21回 福祉現場の意見
- 第22回 プレゼンテーションの方法(1)
- 第23回 プレゼンテーションの方法(2)
- 第24回 活動の振り返り(7)
- 第25回 活動の振り返り(8)
- 第26回 活動の振り返り(9)
- 第27回 活動の振り返り(10)
- 第28回 全体報告会
- 第29回 全体報告会
- 第30回 1年間の振り返り

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
出席、提出物、活動記録で総合的に評価します。

【備考】

【準備学習の指示】授業が始まると実際に福祉現場で活動をしていきます。新聞やニュースなどの高齢者、障がい者、児童など福祉に関わる話題に目を通し、自分がどんな現場でどんな活動をしたいのかを考えるための情報を手に入れてください。

・08～10生対象

科目名 クラス 講義区分	
社会福祉法 <春集>	
瀧澤 仁 唱	4単位

【講義概要】

- 我が国における社会福祉行政の歴史的展開
- 社会福祉法制の概要
 - 福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要
 - 社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤（民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む）
 - 関連法の概要（介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法等）
 - 社会福祉計画（老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画、地域福祉計画）
 - 地方自治体の独自事業
- 社会福祉の実施体制（国と地方の役割、行政機関と関係機関、措置制度）
- 社会福祉の財政と費用負担
- 社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方

【学習目標】

- 社会福祉の法体系及び関係法の概要を理解させる。
- 社会福祉の実施体制の概要を理解させる。
- 社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度を理解させる。
- 我が国における公私の役割を理解させる。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
講義の目的
①制度を知る ②概念をきちんとおさえる ③社会的なものを見方を養う ④社会福祉主事任用資格認定科目について ⑤試験準備
(授業進度および学生の希望により講義順序および内容が変わる場合があります)
- 第2回 社会福祉の意義 社会福祉は多義的な概念
- 第3回 社会福祉関係法の発生 社会保障の歴史
- 第4回 憲法と社会福祉関係法 市民法の3原則と憲法
- 第5回 社会保障法の中の社会福祉関係法の位置 社会保障は、社会保険、国家扶助(公的扶助)、公衆衛生・医療、社会福祉の四部門
- 第6回 社会福祉法(1) 社会福祉法の編成
- 第7回 社会福祉法(2) 社会福祉事業
- 第8回 社会福祉法(3) 福祉に関する事務所、社会福祉主事
- 第9回 社会福祉法(4) 社会福祉法人の管理、社会福祉法人の解散及び合併
- 第10回 社会福祉法(5) 社会福祉事業、福祉サービスの適切な利用
- 第11回 社会福祉法(6) 人材確保、地域福祉
- 第12回 障害者福祉法(1) 障害者基本法の障害者、障害者自立支援法の障害者
- 第13回 障害者福祉法(2) 障害者自立支援法の目的、各障害者福祉法
- 第14回 障害者福祉法(3) 障害者自立支援法
- 第15回 障害者福祉法(4) 障害者自立支援法
- 第16回 障害者福祉法(5) 障害者自立支援法、身体障害者福祉法
- 第17回 障害者福祉法(6) 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法
- 第18回 障害者福祉法(7) 知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)
- 第19回 障害者福祉法(8) 精神保健福祉法
- 第20回 老人福祉関係法(1) 老人(高齢者)とは何か
- 第21回 老人福祉関係法(2) 介護保険法
- 第22回 老人福祉関係法(3) 介護保険法
- 第23回 老人福祉関係法(4) 介護保険法
- 第24回 児童および母子福祉関係法(1) 児童および母子福祉関係法を学ぶ際の要点
- 第25回 児童および母子福祉関係法(2) 児童福祉法
- 第26回 児童および母子福祉関係法(3) 児童福祉法
- 第27回 児童および母子福祉関係法(4) 単親子家庭福祉関係法制
- 第28回 児童および母子福祉関係法(5) 単親子家庭福祉関係法制
- 第29回 児童および母子福祉関係法(6) 単親子家庭福祉関係法制
- 第30回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
論述式筆記試験

【教科書】

法改正が多いため、改訂版がでる可能性があるため、授業開始時に指示します。

【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法(2010年版)又は『社会福祉六法2010(平成22)年版』(新日本法規)

必要に応じて一部条文はコピーしてわたすので、購入する必要はない。古い六法は使えないので、ご注意いただきたい。

【備考】

準備学習の指示：準備学習として予習を重視するので、指示・配布された教材に常に注意を払うこと。

科目名	クラス	講義区分
社会保障論A <春>		
根本 嘉 昭	2単位	

【講義概要】

現在社会保障は転機を迎えています。社会保障はそれぞれの国の生成と発展の歴史の中で社会の安定をめざして創られたものですが、今、その制度の存続に関して多くの課題が出現してきています。この講義では、社会保障の理念・意義、社会保障制度の体系、社会保障と公的扶助や社会福祉との関係、公的保険と民間保険との関係、社会保障の財源などについて理解を深め、現在の社会保障制度の持つ課題等について考察していきます。社会保障論A及び社会保障論Bの講義概要及び学習目標を共通のものとして、春学期及び秋学期を通じて追究していきます。

【学習目標】

- 社会保障の意義・役割について理解する。
- 社会保障制度の体系について理解する。
- 各社会保障プログラムの具体的な内容について理解する。
- 現在の社会保障制度の問題や課題について理解する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会保障制度の概要
- 第3回 医療保険制度(1)(制度の概要)
- 第4回 医療保険制度(2)(健康保険と国民健康保険)
- 第5回 医療保険制度(3)(保険給付)
- 第6回 医療保険制度(4)(診療報酬・薬価基準)
- 第7回 医療保険制度(5)(高齢者の医療制度)
- 第8回 医療保険制度(6)(医療費と医療提供体制)
- 第9回 医療保険制度(7)(問題点と課題)
- 第10回 生活保護制度
- 第11回 社会福祉制度(1)
- 第12回 社会福祉制度(2)
- 第13回 社会手当
- 第14回 介護保険の意義
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

椋野美智子、田中耕太郎 はじめての社会保障 第7版 補訂版 有斐閣

【参考文献】

保険と年金の動向 各年版
厚生労働白書 各年版

【備考】

【準備学習の指示】

テキストには各章ごとに大切な学習課題が提示されています。授業中に出される課題とあわせて、その課題に取り組むなど予習・復習を十分にするようにしてください。

- ・02～08生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
社会保障論B <秋>		
根本 嘉 昭	2単位	

【講義概要】

現在社会保障は転機を迎えています。社会保障はそれぞれの国の生成と発展の歴史の中で社会の安定をめざして創られたものですが、今、その制度の存続に関して多くの課題が出現してきています。この講義では、社会保障の理念・意義、社会保障制度の体系、社会保障と公的扶助や社会福祉との関係、公的保険と民間保険との関係、社会保障の財源などについて理解を深め、現在の社会保障制度の持つ課題等について考察していきます。社会保障論A及び社会保障論Bの講義概要及び学習目標を共通のものとして、春学期及び秋学期を通じて追究していきます。

【学習目標】

- 社会保障の意義・役割について理解する。
- 社会保障制度の体系について理解する。
- 各社会保障プログラムの具体的な内容について理解する。
- 現在の社会保障制度の問題や課題について理解する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 介護保険制度(1)(制度の概要)
- 第3回 介護保険制度(2)(問題点と課題)
- 第4回 年金保険制度(1)(意義と沿革)
- 第5回 年金保険制度(2)(現行制度の概要①)
- 第6回 年金保険制度(3)(現行制度の概要②)
- 第7回 年金保険制度(4)(老齢給付)
- 第8回 年金保険制度(5)(障害給付)
- 第9回 年金保険制度(6)(遺族給付)
- 第10回 年金保険制度(7)(問題点と課題)
- 第11回 労働保険制度(1)(雇用保険)
- 第12回 労働保険制度(2)(労働者災害補償保険)
- 第13回 社会保険と民間保険
- 第14回 社会保障の歴史と展望
- 第15回 試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

椋野美智子、田中耕太郎 はじめての社会保障 第7版 補訂版 有斐閣

【参考文献】

保険と年金の動向 各年版
厚生労働白書 各年版

【備考】

【準備学習の指示】

テキストには各章ごとに大切な学習課題が提示されています。授業中に出される課題とあわせて、その課題に取り組むなど予習・復習を十分にするようにしてください。

- ・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
Japanese Studies - Art and Society 01<春集> Japanese Studies - Art and Society 02<秋集>	
片平 幸	4単位

【講義概要】

This course will look at what is called "classical" and "traditional" culture in Japan.

I will introduce basic knowledge, such as historical background, as well as recent studies and arguments, such as ideology behind about "classical" and "traditional" Japanese culture.

Various performances, paintings, gardens and other arts will be discussed. Handouts on Key concepts and theories will be provided during the course.

As part of the course assessment, students are required to write an essay on given themes and take three mini-tests in class as well as final exam.

【学習目標】

Students are expected to learn not only general knowledge, but also analytical view to Japanese culture.

【講義計画】

- 第1回 Introduction to the course (1)
- 第2回 Introduction to the course (2)
- 第3回 Folk performances and Religion in Japan (1)
- 第4回 Folk performances and Religion in Japan (2)
- 第5回 Folk performances and Religion in Japan (3)
- 第6回 Japanese Aesthetics in Nara period : the world of Ten Thousand Leaves
- 第7回 Japanese Aesthetics in Heian period: the world of Genji
- 第8回 Art and Religion in Heian Period (1)
- 第9回 Art and Religion in Heian Period (2)
- 第10回 The World of Yoshida Kenko's Literature
- 第11回 Aesthetics in Kamakura Period
- 第12回 Art and Religion in Kamakura Period
- 第13回 Aesthetics in Muromachi Period (1)
- 第14回 Aesthetics in Muromachi Period (2) Noh Performance
- 第15回 Art and Religion in Muromachi Period (1)
- 第16回 Art and Religion in Muromachi Period (2)
- 第17回 Aesthetics in Azuchi-Momoyama Period
- 第18回 Arts in Edo Period
- 第19回 Edo Culture-Performing art~Bunraku and Kabuki (1)
- 第20回 Edo Culture-Performing art~Bunraku and Kabuki (2)
- 第21回 Edo Culture-Paintings and Prints
- 第22回 Edo Culture-Gardens and Architecture
- 第23回 Edo Culture-Sense of humour~Rakugo
- 第24回 Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
- 第25回 Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
- 第26回 Aesthetics and Ideology in Meiji Japan
- 第27回 Review
- 第28回 Final exam

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
Class participation and three mini-tests 30%, Term essay (Approximately 3-4 pages) 30%, final Examination 40%

【参考文献】

Handout will be provided
Paul Varley, Japanese Culture, University of Hawai'i Press, 2000
Okakura Tenshin, The Book of Tea, Kodansha Gakujutsu Bunko, 1994 (Originally written in 1906)
Yoshida Kenko, The Essays in Idleness, Tsurezuregusa of Kenko, translated by Donald Keen, Columbia University Press, 1998.

【備考】

【準備学習】

上記の参考文献(英語)と、光田和伸『恋の隠し方ー兼好と「徒然草」』(青草書房2008年)を、事前に一通り読んでおくと、英語での講義ですが、理解を助けます。

- ・英語による講義
- ・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
Japanese Studies - 日本語文法を通してヒト脳の働きを調べる <春集>	
有川 康二	4単位

【講義概要】

Mother Nature created the human brain. The human brain produces a natural language as Japanese. Grammar rules are natural laws. Studying the laws and mechanisms of the human natural language computation is studying natural laws. This class studies the information-processing system (the human natural language computation system) that is created by Mother Nature. The class will mainly be held in English. Please do not worry; the examples are mainly from Japanese.

(母なる自然はヒト脳を創りました。ヒト脳は日本語のような自然言語を生み出します。文法規則は自然法則です。ヒトの自然言語計算について調べることは、自然法則を調べることです。このクラスでは、母なる自然が創った情報処理システム(ヒト自然言語計算システム)について勉強します。授業は基本的に英語で行われます。主なデータは日本語ですから心配しないでください。)

【学習目標】

We are going to observe selected phenomena of Japanese grammar and other languages, and seek a better explanation.

(日本語や他の言語の文法現象のいくつかを選び出し、それを観察していきます。その現象のよりよい説明を追求していきます。)

【講義計画】

- 第1回 Introduction (はじめに)
Grammar study is empirical science. (文法研究は経験科学です。)
- 第2回 Word order and structure (語順と構造) (1)
- 第3回 Word order and structure (2)
- 第4回 Word order and structure (3)
- 第5回 Word Order and structure (4)
- 第6回 Word order and structure (5)
- 第7回 Word order and structure (6)
- 第8回 Noun phrase movement (名詞句移動) (1)
- 第9回 Noun phrase movement (2)
- 第10回 Noun phrase movement (3)
- 第11回 Noun phrase movement (4)
- 第12回 Noun phrase movement (5)
- 第13回 Noun phrase movement (6)
- 第14回 Summary (まとめ) (1)
- 第15回 Summary (2)
- 第16回 Wh-movement (疑問詞句移動) (1)
- 第17回 Wh-movement (2)
- 第18回 Wh-movement (3)
- 第19回 Wh-movement (4)
- 第20回 Wh-movement (5)
- 第21回 Wh-movement (6)
- 第22回 Head movement (主要部移動) (1)
- 第23回 Head movement (2)
- 第24回 Head movement (3)
- 第25回 Head movement (4)
- 第26回 Head movement (5)
- 第27回 Head movement (6)
- 第28回 Summary (1)
- 第29回 Summary (2)
- 第30回 Final exam

【成績評価の方法】

試験 100%
In the final exam, students can use their notebooks, handouts, dictionaries, etc. Active class participation will be evaluated.

(期末筆記試験では、自筆のノート、配布プリント、辞書など持ち込み可。平常点(積極的な授業参加など)は評価されます。)

【参考文献】

西垣内泰介・石居康男(2003)『英語から日本語を見る』東京: 研究社
(Nishigauchi, T. and Y. Ishii (2003) Looking at Japanese from English. Tokyo: Kenkyusya)

【備考】

- ・英語による講義
- ・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
宗教社会学 <通期>	
清水 夏樹	4単位

【講義概要】

日本および西洋の宗教史を顧み、近・現代社会における宗教のウェイトと機能を考える。明治以降の新宗教にも触れ、戦後・今日に至る社会の“光と影”を照射する。E・デュルケイム、M・ウェーバー等先人の業績をふまえ、隣接する研究分野にも配慮し生身の人間と現実社会との有機的な結びつきを問いつつ講述する。

【学習目標】

諸君も感じるとおり、宗教は時として話題性・事件性にとむものを提供してくれる。それだけ社会の“問題”領域に一石を投げ波紋をひろげる。いまの世相の一端として宗教や神秘体験にはまり易い若い世代の心理傾向も指摘される。本講では一過性の興味に終ることのない視座をまなびつつ、理解と関心を深めるきっかけにしてほしい。

【講義計画】

- 第1回 講述概要の紹介、注意事項
- 第2回 聖と俗、ほか基本コンセプト
- 第3回 宗教の世俗化
- 第4回 世俗化と逆現象
- 第5回 E・デュルケイムー未開社会の宗教
- 第6回 M・モースー贈与と返礼 呪術と宗教儀礼
- 第7回 同上 ほか原始信仰、わが国の宗教儀礼
- 第8回 宗教運動、宗教組織 宗教の役割・機能。ウィルソン、バーガーほか。
- 第9回 M・エリアーデほか比較宗教学・人類学・民俗学関連
- 第10回 同上ーシャーマニズム、カリスマの社会学
- 第11回 祭りの構造 ハレとケ 社会の生態と循環
- 第12回 複合信仰の諸相 仏教の受容と神仏習合Ⅰ
- 第13回 社会変動と宗教Ⅰ 近代化・合理化とその反作用
- 第14回 社会変動と宗教Ⅱ アノミー、時代との共振
- 第15回 前期の整序ー文献紹介を兼ねてー
- 第16回 文献紹介と解題
- 第17回 世俗化と逆説ーdemonizationと再聖化
- 第18回 日本の新宗教Ⅰ 明治ー大正期
- 第19回 日本の新宗教Ⅱ 昭和ー戦後期
- 第20回 新宗教と民俗性、密教系 新々宗教ー7・80年代
- 第21回 神仏習合Ⅱ、シンボルの動態構造 修験道儀礼
- 第22回 M・ウェーバー プロテスタント信仰と上昇期資本主義
- 第23回 同一世俗内禁欲と西欧の経済発展
- 第24回 高度情報消費社会ー8・90年代、スピリチュアリズム、神秘主義
- 第25回 聖・俗・遊ー価値フレーム
- 第26回 同上、三層フレームからー宗教をめぐる状況の再定義Ⅰ
- 第27回 インターネット空間と擬似宗教性 バーチャル体験の前景と後景
- 第28回 “見えない宗教” T・ルックマン。宗教信仰に代わるもの
- 第29回 宗教の代替性 subcultureに現れた宗教心情
- 第30回 宗教と社会への動態視座、宗教状況の再定義Ⅱ

【成績評価の方法】

学年末テストを主体に評点する
上記試験以外に、そのつど簡易レポートを課し、総合評価に勘案・加味する。

【教科書】

大村英昭・西山茂編著 現代人の宗教 有斐閣

【参考文献】

随時指示する

科目名 クラス 講義区分	
就労支援サービス論 <集中>	
乾 伊津子	1単位

【講義概要】

- ・働くことの意味を考え労働をとりまく現状と課題について理解する。
- ・相談援助において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
- ・就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解する。
- ・就労支援分野との連携について理解する。

【学習目標】

新しく社会福祉士試験の科目となる二つの科目について、内容をよく理解し、将来の進路としても意識できるよう学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 働くことの意味と障害
- 第2回 雇用の現状と就労支援の実際
- 第3回 就労支援と制度の概要
- 第4回 就労支援と労働保障
- 第5回 障害特性と就労支援（個別支援計画）
- 第6回 就労支援に係わる地域ネットワーク
- 第7回 就労支援に係わる専門職の役割

【成績評価の方法】

出席 50%
毎回のコミュニケーションカード記入により成績評価（50%）

【参考文献】

就労支援サービス（中央法規、新社会福祉士養成講座）

【備考】

資料配付
・02～08生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
生涯学習概論	01<春>	
生涯学習概論	02<秋>	
尾谷 雅彦	2単位	

【講義概要】

現在、生涯学習という言葉が氾濫している。しかし、その定義は使う人の立場によって変化する。つまり、それほど内容が豊かなものである。本講義では、生涯学習の考え方そして生涯学習の重要な支援領域である社会教育について講義する。特に実践面としての社会教育行政の基本事項とその実態、問題点をとりあげる。

【学習目標】

生涯学習を支援する社会教育の指導者としての専門職員として必要な、生涯学習の基礎的知識の所得と考え方を育む。

【講義計画】

- 第1回 生涯学習とは
- 第2回 生涯学習と社会教育
- 第3回 生涯学習、社会教育の施策
- 第4回 社会教育の意義と社会教育行政
- 第5回 社会教育の内容と方法①
- 第6回 社会教育の内容と方法②
- 第7回 社会教育の歴史
- 第8回 社会教育の指導者
- 第9回 社会教育の施設
- 第10回 学習情報の提供
- 第11回 学習相談の意義
- 第12回 昨今の社会教育行政の課題①
- 第13回 昨今の社会教育行政の課題②
- 第14回 昨今の社会教育行政の課題③
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%
出席を重視。100点満点で配点は2/3以上の出席（確認の為の当日レポート提出）で50点、レポート50点。但し5回以上の欠席は0点とする。

【教科書】

特になし、講義中に適時プリントを配布する。

【参考文献】

- 『生涯学習概論』山本恒夫編著 東京書籍
- 『図書館員のための生涯学習概論』朝比奈大作 日本図書館協会
- 『学習プログラムの技法』岡本包治他 実務教育出版

【備考】

【準備学習の指示】

事前に図書館、博物館、公民館などの社会教育施設の見学と各館が実施している普及啓発の事業等を調べておくこと。

科目名	クラス	講義区分
障害者スポーツ論	01<春集>	
障害者スポーツ論	02<秋集>	
高橋 明	4単位	

【講義概要】

テキストや視聴覚教材（ビデオやスポーツ補助具）なども使い、そうぞうりよく（想像力・創造力）を養えるような内容で、障害者のスポーツの捉え方、障害に対する知識や理解、障害者のスポーツの果たす役割や意義・効果、歴史や現状・課題、そして、指導法等について実技を交え講義する。

【学習目標】

一般にスポーツは、体格・体力・年齢・性別・技術等の違いを、用具やルールを工夫して行われている。障害のある人たちのスポーツも一見特殊に見えるスポーツであっても、障害という「ハンディ」を施設や用具・ルールを工夫すれば障害のある人も同じスポーツが可能であり、みんな一緒にスポーツを楽しめるという理念の基に、「アダプテッド・スポーツ＝各々に適応させたスポーツ」であることを学ぶと共に、障害者のスポーツを通して、生きる力を育み、人間の可能性、変化する素晴らしさを理解する。

【講義計画】

- 第1回 授業概要説明・ガイダンス 障害者のスポーツビデオ観賞
- 第2回 パラリンピックの映像を通して、障害を理解する
- 第3回 障害者と福祉・障害者の理解について
 - ①障害者の現状
- 第4回 ②障害者とスポーツの捉え方
- 第5回 障害者と福祉・障害者の理解について
 - ①障害者とリハビリテーションの定義
 - ②リハビリテーションにおけるスポーツ
- 第7回 障害者のスポーツ振興
 - ①障害者のスポーツの現状
 - ②障害者のスポーツの意義、効果
- 第8回 障害者のスポーツの歴史と現状
- 第9回 ①医療スポーツとして
- 第10回 ②競技スポーツとして
- 第11回 ③国際大会の現状
- 第12回 障害者と生涯スポーツの現状
- 第13回 ①障害者のスポーツの動向
- 第14回 ②障害者と生涯スポーツの動向
- 第15回 ③障害者と生涯スポーツの課題
- 第16回 ④スポーツ指導者制度(障害者スポーツ指導者制度)
- 第17回 ⑤ボランティア活動
- 第18回 ⑥障害者とスポーツ競技会の企画運営
- 第19回 障害者のスポーツ指導と要点
 - ①一般的なスポーツ指導 ②指導の要点
- 第20回 ③スポーツの概念 ④障害者に対するスポーツ指導の原則
- 第21回 障害者のスポーツ指導上の留意事項
 - ①指導上の留意事項
- 第22回 障害者のスポーツ指導上の留意事項
 - ②指導上の留意事項
- 第23回 障害者のスポーツ指導上の留意事項
 - ③指導上の留意事項
- 第24回 障害者による運動処方と留意事項Ⅰ
 - ①運動処方にあたっての留意事項
- 第25回 障害者による運動処方と留意事項Ⅱ
 - ①運動処方にあたっての留意事項
- 第26回 アダプテッド・スポーツの実技体験
 - (車椅子バスケットボール・ふうせんバレーボール・ボッチャほか)
- 第27回 アダプテッド・スポーツの実技体験
 - (車椅子バスケットボール・ふうせんバレーボール・ボッチャほか)
- 第28回 障害者スポーツに関するイベントへの参加
- 第29回 障害者スポーツセンターの見学等（希望者）

【成績評価の方法】

出席重視（必ず出席を取ります。）出席率80%、テスト（授業内テスト）、レポート

【教科書】

- 高橋 明 障害者とスポーツ 岩波書店(岩波新書)
- 高橋 明 障害者とスポーツ 自主制作冊子

【参考文献】

上記のテキスト2冊(1,200円程度)を使用します。購入方法は、授業の中で販売します。

【備考】

- ・02～08SW生は01クラスのみ履修可
- ・09～10SW生は02クラスのみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
障害者福祉論A <春>	
黒田 隆之	2単位

【講義概要】

障害のある人に対する支援と障害者自立支援制度について学ぶ。
 ① 障害のある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要、障害のある人の地域生活の状況、就労の実態について理解する。
 ② 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
 ③ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護に関係するその他の法制度について理解する。

【学習目標】

社会福祉専門職である社会福祉士に必要な障害のある人への支援について、理解し実践できるようになる。

【講義計画】

- 第1回 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態
障害者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要、障害者の生活実態
- 第2回 障害の理解と障害者福祉の基本的理念
- 第3回 障害者福祉制度の発展過程
- 第4回 障害者にかかわる法体系
障害者基本法と障害者にかかわる法律の体系
- 第5回 障害者自立支援制度① 障害者自立支援法の理念・考え方
- 第6回 障害者自立支援制度② 自立支援給付
- 第7回 障害者自立支援制度③ 支給決定のプロセス
- 第8回 障害者自立支援制度④ 自立支援医療費、補装具費、地域生活支援事業、障害福祉計画
- 第9回 障害者自立支援制度⑤ 障害児に対する支援、苦情解決、審査請求
- 第10回 障害者自立支援法における組織・機関・団体の役割と実際①
行政機関の役割、指定障害者サービス事業および指定障害者支援施設の役割
- 第11回 障害者自立支援法における組織・機関・団体の役割と実際②
国民健康保険団体連合会の役割、労働機関の役割、教育機関の役割
- 第12回 障害者自立支援法における専門職の役割と実際①
専門職の価値・倫理、障害者自立支援法に基づく主な専門職、相談支援事業所における相談支援の役割と実際
- 第13回 障害者自立支援法における専門職の役割と実際②
サービス管理責任者の役割と実際、生活支援員等の役割と実際、居宅介護従事者の役割と実際
- 第14回 障害者自立支援法における多職種連携・ネットワーク
多職種連携の意味、医療・教育・労働関係機関との連携、多職種連携の方法と実際
- 第15回 障害者に関連する法律
「身体障害者福祉法」、「知的障害者福祉法」、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」、「発達障害者支援法」、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」、「学校教育法」、「障害者の雇用の促進等に関する法律」

【成績評価の方法】

試験 100%

【教科書】

社会福祉士養成講座編集委員会編 新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規

【備考】

・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
障害者福祉論B <秋>	
黒田 隆之	2単位

【講義概要】

本講義では、障害者福祉論Aで学んだことをふまえて、障害のある人の地域生活の課題と展望について学びます。

障害者福祉論Aの単位をすでに修得していることが望ましい。

【学習目標】

障害者福祉の世界でおこっているさまざまなことについて、自分なりの意見を持ち、行動できるようになることが、目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害の概念の整理(1)
- 第3回 障害の概念の整理(2)
- 第4回 障害の概念の整理(3)
- 第5回 障害者福祉の基本的理念(1)
- 第6回 障害者福祉の基本的理念(2)
- 第7回 障害者福祉の基本的理念(3)
- 第8回 障害者福祉の基本的理念(4)
- 第9回 障害のある人の地域生活の課題と展望(1)
- 第10回 障害のある人の地域生活の課題と展望(2)
- 第11回 障害のある人の地域生活の課題と展望(3)
- 第12回 障害のある人の地域生活の課題と展望(4)
- 第13回 障害者に対する相談援助活動(1)
- 第14回 障害者に対する相談援助活動(2)
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

出席、レポート、テスト等により総合的に評価します。

【教科書】

授業時にお伝えします。

【参考文献】

授業時にお伝えします。

【備考】

・02～08生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
上級英語 I 01<春集>	
Hadija Drummond	2単位

【講義概要】

The purpose of the Advanced English program courses is to offer serious, motivated, post-intermediate level students the opportunity to improve their ability to communicate in English. The courses are more intensive and demanding than the English A/B courses. They are content-based, and include extensive reading and listening practice along with oral presentation and writing tasks. This first course introduces students to content-based instruction and develops the four skill areas through challenging and interesting readings, discussions and other learning activities.

【学習目標】

The goal of the course is to dramatically improve speaking, reading, writing and listening fluency and competency through intensive English study using content as the basis for instruction.

- Speaking
 - Basic presentation skills
 - Basic debating skills
 - Presenting arguments
- Writing
 - Writing strong sentences
 - Paragraph writing and style
- Listening
 - Listening for main points and details
 - Using visual and other cues when listening
 - Guessing from Context
- Reading
 - Improve reading speed and fluency
 - Reading for main ideas and details
 - Using context to aid comprehension

【講義計画】

- 第1回 Syllabus explanation
Classroom English
Small talk
- 第2回 Environment Unit
- 第3回 Environment Unit
- 第4回 Environment Unit
- 第5回 Environment Unit
- 第6回 Environment Unit
- 第7回 Environment Unit
- 第8回 Environment Unit
- 第9回 Environment Unit Assessment (Presentation)
- 第10回 Relationships Unit
- 第11回 Relationships Unit
- 第12回 Relationships Unit
- 第13回 Relationships Unit
- 第14回 Relationships Unit
- 第15回 Relationships Unit Assessment (Group Discussion)
- 第16回 International Politics and Development Unit
- 第17回 International Politics and Development Unit
- 第18回 International Politics and Development Unit
- 第19回 International Politics and Development Unit
- 第20回 International Politics and Development Unit
- 第21回 International Politics and Development Unit
- 第22回 International Politics and Development Unit
Assessment (Writing Assignment)
- 第23回 Issues in Japanese Society Unit
- 第24回 Issues in Japanese Society Unit
- 第25回 Issues in Japanese Society Unit
- 第26回 Issues in Japanese Society Unit
- 第27回 Issues in Japanese Society Unit
- 第28回 Japanese Society Unit Assessment (Debate)

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

【教科書】

Barnaby Newbolt Climate Change Oxford
Erich Segal Love Story Oxford

【備考】

In addition to attending classes, students should be prepared to actively participate in class.

Students should prepare for each lesson and must submit assignments on time.

- 08~09生対象 (L生除く)

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
上級英語Ⅰ 02<春集>	
Leon Bell	2単位

【講義概要】

This class comprises 3 modules each lasting 4 weeks. The modules are

- 1) Roots of English
- 2) How to approach new English
- 3) Using English domestically and internationally

【学習目標】

In this course students will gain a greater appreciation for English. The aim is to learn about English, using English. By the end of the course students will be able to talk about some of the whys and hows of English.

【講義計画】

- 第1回 Orientation
- 第2回 Root languages 1
- 第3回 Basic comparative grammar.
- 第4回 Root languages 2
- 第5回 Web search, Dictionary construction
- 第6回 Root languages 3
- 第7回 Dictionary amalgamation.
- 第8回 Root languages 4
- 第9回 Basic history of English.
- 第10回 Root languages review.
- 第11回 Introduction to accents.
- 第12回 Root languages review.
- 第13回 Basic dialects, accent reinforcement.
- 第14回 Root languages review.
- 第16回 Semester 1 review.
- 第17回 How to approach new English.
- 第18回 Dialect review. Accent review.
- 第19回 Reading new English effectively.
- 第20回 Basic history of English review. Roots languages review.
- 第21回 International English- How do you approach it?
- 第22回 Basic comparative grammar review.
- 第23回 Japanese English.
- 第24回 How to approach new English and Root languages review.
- 第25回 ASEAN English
- 第26回 Reading new English effectively review.
- 第27回 World Englishes comparison.
- 第28回 ASEAN and Japanese Englishes.
- 第29回 Final Review class.

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

Students do 3 reports. Each weighted 20%.

Attendance is measured by how many times a student contributes actively to class. One contribution is equal to 1%. Therefore if a student contributed 6 times in a class they have accumulated 6% towards their attendance percentage.

【備考】

Students will communicate with the teacher in English to the best of their ability.

- ・08~09生対象 (L生除く)

科目名 クラス 講義区分	
上級英語Ⅱ 01<秋集>	
Cameron Romney	2単位

【講義概要】

This course is intended for students who have achieved a moderate level of English ability and wish to improve their English even further. The primary language focus of this class will be vocabulary, idioms and other lexical items. A secondary focus will be to develop and understanding of American Culture.

【学習目標】

The instructor will chose video segments primarily from American television, but from movies as well, that introduce elements of American society, culture, and business. Students will explore these topics through discussion, debate and role-play. Students will be expected to attend and actively participate in every class.

【講義計画】

- 第1回 Class Introduction
- 第2回 English practice with authentic video materials
- 第3回 English practice with authentic video materials
- 第4回 English practice with authentic video materials
- 第5回 English practice with authentic video materials
- 第6回 English practice with authentic video materials
- 第7回 English practice with authentic video materials
- 第8回 English practice with authentic video materials
- 第9回 English practice with authentic video materials
- 第10回 English practice with authentic video materials
- 第11回 English practice with authentic video materials
- 第12回 English practice with authentic video materials
- 第13回 English practice with authentic video materials
- 第14回 English practice with authentic video materials
- 第15回 English practice with authentic video materials
- 第16回 English practice with authentic video materials
- 第17回 English practice with authentic video materials
- 第18回 English practice with authentic video materials
- 第19回 English practice with authentic video materials
- 第20回 English practice with authentic video materials
- 第21回 English practice with authentic video materials
- 第22回 English practice with authentic video materials
- 第23回 English practice with authentic video materials
- 第24回 English practice with authentic video materials
- 第25回 English practice with authentic video materials
- 第26回 English practice with authentic video materials
- 第27回 review
- 第28回 Final Exam
- 第29回 Extra lesson as needed
- 第30回 Extra lesson as needed

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 20% 出席 60%

Students will be primarily assessed on their participation in class. However, students will be expected to keep a vocabulary and reaction journal, listing new words encountered in the video segments and their reaction/opinion of the cultural elements discussed. These journals will be collect periodically throughout the semester. There will be an exam on the last day of class.

【教科書】

There will be no text for the class. Students will be given handouts as prepared by the instructor.

【参考文献】

Students are encouraged to have bilingual English/Japanese and a monolingual English dictionary.

【備考】

- ・08~09生対象 (L生除く)

科目名 クラス 講義区分	
上級英語Ⅱ 02<秋集>	
Myles Grogan	2単位

【講義概要】

This class consists of units based around topics. Each topic will last about two weeks. In addition, a set of study skills will be introduced to help students make the most of the course.

【学習目標】

The purpose of the class is to learn things in English, rather than to "learn" English. The course goals are equivalent to English II A and B.

【講義計画】

- 第1回 Introductions
- 第2回 Classroom Communication
- 第3回 Skills 1 - Shadowing
- 第4回 Computing 1
- 第5回 Computing 2
- 第6回 Computing 3
- 第7回 Computing 4
- 第8回 Skills 2 - Mindmaps
- 第9回 Presentations 1
- 第10回 Presentations 2
- 第11回 Presentations 3
- 第12回 Presentations 4
- 第13回 Skills 3 - Making notes
- 第14回 The Nobel Peace Prize
- 第15回 The Nobel Peace Prize
- 第16回 The Nobel Peace Prize
- 第17回 The Nobel Peace Prize
- 第18回 Skills 4 - Research skills
- 第19回 Using video
- 第20回 Using video
- 第21回 Using video
- 第22回 Using video
- 第23回 Skills 5 - Assessing information
- 第24回 Using numbers
- 第25回 Using numbers
- 第26回 Using numbers
- 第27回 Using numbers
- 第28回 Semester review
- 第29回 Academic counselling
- 第30回 Conclusion

【成績評価の方法】

Evaluation will primarily be based on:

1. Timely and successful completion of class projects in English (35%)
2. Full participation in the classwork (35%)
3. Attendance and personal improvement (30%)

【教科書】

Students should strongly consider having an English-English dictionary and at least 2GB USB memory for class and home use

【参考文献】

Students will be asked to keep an English-English vocabulary book.

Topics may be changed to reflect a) student interest, b) scheduling issues, or c) current issues or events

【備考】

- ・08~09生対象 (L生除く)

科目名 クラス 講義区分	
上級英語L 01<春集>	
都 築 郷 実	2単位

【講義概要】

英字新聞の見出し、書き出し、本文の読み方を学びながら、英字新聞固有の表現、語彙を学習します。これで英字新聞を読む習慣をつける突破口にします。読み方はパラグラフを中心とした文章読解法を修得することを目指します。さらに英字新聞独特な表現や語彙などの基礎も学習しながら、TOEIC の試験でも高得点が取れるような総合的で高度な英語力が身に付くように学習します。

【学習目標】

やや複雑で長い英文の多読を通して、(1)語彙力の強化、(2)直読・直解力の養成、(3)正確な読みの力の育成、の3点を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 新聞の見出しの用法と文法
- 第2回 新聞の見出しの読み方
- 第3回 新聞の書き出しの用法と文法
- 第4回 新聞の書き出しの読み方
- 第5回 新聞でよく使われる見出し用語
- 第6回 新聞でよく使われる略語
- 第7回 新聞の本文の読み方(1)
- 第8回 新聞の本文の読み方(2)
- 第9回 新聞の本文の読み方(3)
- 第10回 Kobe Airport brings further competition to Kansai runways (1)
- 第11回 Kobe Airport brings further competition to Kansai runways (2)
- 第12回 Evildoers lurk on Internet (1)
- 第13回 Evildoers lurk on Internet (2)
- 第14回 Municipalities facing pension crisis in 2007 (1)
- 第15回 Municipalities facing pension crisis in 2007 (2)
- 第16回 Rail passengers to be scanned (1)
- 第17回 Rail passengers to be scanned (2)
- 第18回 Universities stressing practical experience (1)
- 第19回 Universities stressing practical experience (2)
- 第20回 Courts use manga to promote lay judge system (1)
- 第21回 Courts use manga to promote lay judge system (2)
- 第22回 Bacteria aiding global warming (1)
- 第23回 Bacteria aiding global warming (2)
- 第24回 The depths of fabrication
- 第25回 The life of geisha well translated
- 第26回 Heavy snowfall warming remains in effect
- 第27回 A new empire is shaken
- 第28回 Beef ban not just about meat
- 第29回 Arakawa breaks medal drought

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

鈴木 繁 他編著 Learning Current English through Papers 英宝社
岡裏 佳幸 他編著 クイズで攻略 TOEICテストボキャブラリー 南雲堂

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
上級英語L 02<秋集>	
都 築 郷 実	2単位

【講義概要】

あらゆる分野の世界のニュースに触れて、読み、聴き、話し、書く楽しさを育てながら、多角的にして、複合的な英語運用力が培われるように学習します。これにより「英文を読むこと」への抵抗感をなくし、英語を通して広がる世界を見る目と考える力を育てます。

【学習目標】

やや複雑で長い英文の多読を通して、(1)語彙力の強化、(2)直読・直解力の養成、(3)正確な読みの力の育成、の3点を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 政治用語 (国内・国際政治)
- 第2回 経済用語
- 第3回 犯罪・裁判関連用語
- 第4回 科学・医学用語
- 第5回 IT関連用語
- 第6回 気象用語
- 第7回 An ambassador without an embassy
- 第8回 Women job hunters tell tales of woe
- 第9回 Mothers are isolated from society
- 第10回 Experts predict demise of several languages during the next century (1)
- 第11回 Experts predict demise of several languages during the next century (2)
- 第12回 White men's high medical-test scores raise cultural questions
- 第13回 U.S. scientists slam effectiveness of diet program
- 第14回 Awareness is spreading in the workplace
- 第15回 Simple test to help doctors spot mental problems
- 第16回 Study shows cholesterol-lowering drugs reduce risk of death
- 第17回 Nonsmoking women in smoking homes face cancer risk
- 第18回 Environmentalists mark Earth Day's anniversary
- 第19回 Beauty is key in warden's job
- 第20回 Nature study for kids urged
- 第21回 Eco-friendly, nonwood paper on rise
- 第22回 Botanists find Jurassic 'Christmas tree'
- 第23回 Transfer to multimedia society crucial for the nation's future
- 第24回 Intense search nears for other Earths
- 第25回 Cable TV industry set for major boom
- 第26回 Master genetic switch that determines sex is found (1)
- 第27回 Master genetic switch that determines sex is found (2)
- 第28回 Language study shows brains of men, women are different(1)
- 第29回 Language study shows brains of men, women are different(2)

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

石黒 昭博 他編著 Writing on Current Topics in English 英宝社
 佐藤 誠司 他編 TOEIC テストビジュアル英単語 ジャパンタイムズ

科目名 クラス 講義区分	
上級英語OC 01<春集> 上級英語OC 02<春集>	
Richard Leigh Harper	2単位

【講義概要】

Students will engage in discussions, debates, other communicative activities, and give a presentation in English. Students will be provided with the necessary knowledge to develop their speaking ability.

【学習目標】

Students will develop their ability to give their opinion on a range of subjects relating to international society.

【講義計画】

- 第1回 Course Outline and Introduction
- 第2回 Personal Profiles
- 第3回 Relationships
- 第4回 Discussing Family
- 第5回 Discussing Your Hometown
- 第6回 Discussing Memories
- 第7回 Narratives
- 第8回 Review Lesson
- 第9回 Recommendations
- 第10回 Embarrassing Experiences
- 第11回 Discussing the Future
- 第12回 Discussing Work
- 第13回 Experiences
- 第14回 Discussing Personality
- 第15回 Discussing Festivals
- 第16回 Review Lesson
- 第17回 Presentation Skills Lesson
- 第18回 Presentation Skills Lesson
- 第19回 Presentation Preparation
- 第20回 Guided Tours
- 第21回 Discussing Technology
- 第22回 Presentation Preparation
- 第23回 Presentation
- 第24回 Discussing Current Affairs
- 第25回 Discussing Current Affairs
- 第26回 Hypothesizing
- 第27回 Discussing Success
- 第28回 Review Lesson
- 第29回 Final Test

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 30% 出席 40%

Attendance will also include marks for attitude and participation.

【教科書】

Jon Naunton Clockwise Upper Intermediate Oxford

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
上級英語OC 03<秋集>	
Mark Donnellan	2単位

【講義概要】

Taking into account the achievement objectives, students will practice oral communication through various activities such as everyday conversation, drama, discussion, debates, speeches, presentations, and so on. At the same time they will acquire vocabulary, grammar, and the necessary world knowledge needed to improve their speaking skills and to function autonomously in an English only environment.

【学習目標】

In Advanced English OC (Oral Communication) students will be taught to express detailed opinions and to expand beyond basic responses. In addition, students will be taught to speak with accurate pronunciation, wording, and grammar.

【講義計画】

- 第1回 Introductions/class rules/instructions
- 第2回 unit 1
- 第3回 unit 1
- 第4回 unit 2
- 第5回 unit 2
- 第6回 unit 3
- 第7回 unit 3
- 第8回 unit 4
- 第9回 unit 4
- 第10回 Presentation/Group Project
- 第11回 Presentation/Group Project
- 第12回 unit 5
- 第13回 unit 5
- 第14回 unit 6
- 第15回 unit 6
- 第16回 unit 7
- 第17回 unit 7
- 第18回 unit 8
- 第19回 unit 8
- 第20回 Presentation/Group Project
- 第21回 Presentation/Group Project
- 第22回 unit 9
- 第23回 unit 9
- 第24回 unit 10
- 第25回 unit10
- 第26回 unit 11
- 第27回 unit 11
- 第28回 unit 12
- 第29回 unit 12/review
- 第30回 Final Exam

【成績評価の方法】

試験 20% レポート 30% 出席 50%
 The attendance grade also includes participation.
 The report grade is based on:
 Presentations
 Group projects

【教科書】

McCarthy touchstone 4 Cambridge

【備考】

・02～07生は読替一覽参照

科目名 クラス 講義区分	
上級英語R 01<春集>	
都 築 郷 実	2単位

【講義概要】

英字新聞の見出し、書き出し、本文の読み方を学びながら、英字新聞固有の表現、語彙を学習します。これで英字新聞を読む習慣をつける突破口にします。読み方はパラグラフを中心とした文章読解法を修得することを目指します。さらに英字新聞独特な表現や語彙などの基礎も学習しながら、TOEIC の試験でも高得点が取れるような総合的で高度な英語力が身に付くように学習します。

【学習目標】

やや複雑で長い英文の多読を通して、(1)語彙力の強化、(2)直読・直解力の養成、(3)正確な読みの力の育成、の3点を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 新聞の見出しの用法と文法
- 第2回 新聞の見出しの読み方
- 第3回 新聞の書き出しの用法と文法
- 第4回 新聞の書き出しの読み方
- 第5回 新聞でよく使われる見出し用語
- 第6回 新聞でよく使われる略語
- 第7回 新聞の本文の読み方(1)
- 第8回 新聞の本文の読み方(2)
- 第9回 新聞の本文の読み方(3)
- 第10回 With bold stand, Japan opposition wins a landslide
- 第11回 Leader of Japan's opposition resigns
- 第12回 The upside to Japan's recession
- 第13回 A giant falls
- 第14回 World powers accept warming limit
- 第15回 Japan envoy wins UN nuclear post
- 第16回 Jackson fans and family mourn his death
- 第17回 First dog Bo meets White House press corps
- 第18回 Aegis ships may target missile from North
- 第19回 MSDF shoos away suspected pirates
- 第20回 Japan eases up on swine-flu measures
- 第21回 Italy earthquake deaths soar
- 第22回 Japan pop icon Komuro gets suspended jail term
- 第23回 Police say N.Y. immigrant shooter's act no surprise
- 第24回 Obama announces new fuel economy standards
- 第25回 Soaring electricity use by new electronic devices imperils climate change efforts
- 第26回 Archaeologists hunt for Cleopatra's tomb
- 第27回 A rich night for best picture Slumdog Millionaire
- 第28回 Japan beats south Korea in a classic finale
- 第29回 Guardiola praise Barca bravery

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

堀江 洋文 他編著 English for Mass Communication 2010 Edition 朝日出版社
 岡裏 佳幸 他編著 クイズで攻略 TOEICテストボキャブラリー 南雲堂

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
上級英語R 02<秋集>	
都 築 郷 実	2 単位

【講義概要】

あらゆる分野の世界のニュースに触れて、読み、聴き、話し、書く楽しさを育てながら、多角的にして、複合的な英語運用力が培われるように学習します。これにより「英文を読むこと」への抵抗感をなくし、英語を通して広がる世界を見る目と考える力を育てます。

【学習目標】

やや複雑で長い英文の多読を通して、(1)語彙力の強化、(2)直読・直解力の養成、(3)正確な読みの力の育成、の3点を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 政治用語 (国内・国際政治)
- 第2回 経済用語
- 第3回 犯罪・裁判関連用語
- 第4回 科学・医学用語
- 第5回 IT関連用語
- 第6回 Sleepy Wyoming town morphs into English-teaching hub
- 第7回 Blood types—do they shape a personality or are they mere stereotypes?
- 第8回 Wakata to become first Japanese to spend 3 months in space
- 第9回 A first family that looks like America
- 第10回 Note to parents: Teaching manners is part of raising a healthy child
- 第11回 Care workers struggling with kanji
- 第12回 Arab women find a job, and freedom, at 35,00 feet
- 第13回 Two Japanese films bag Oscars
- 第14回 China court takes aim at vigilantism on Internet
- 第15回 4,800 books, 2 burros and one striving teacher
- 第16回 Darwin and Darwinism
- 第17回 Somalia sinks into total disintegration
- 第18回 Japan rules baseball world again
- 第19回 Shoe-throwing Iraqi becomes a symbol
- 第20回 Ethnic tensions threaten fragile Bosnia pact
- 第21回 Women begin leading the way in Reykjavik
- 第22回 Inner-city students in N.Y. learn Japanese as their third language
- 第23回 A collective as sanctuary for Russian orphans
- 第24回 A youth subculture thrives in Argentina
- 第25回 Amateur singer becomes Internet sensation
- 第26回 Three Physicists Share Nobel Prize
- 第27回 Chinese hip-hop grows in shadows
- 第28回 Demise of the French cafe, and a way of life
- 第29回 Japanese teen creating a buzz

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

【教科書】

高橋 優身 他編著 English through the News Media 2010 Edition 朝日出版社
佐藤 誠司 他編 TOEIC テストビジュアル英単語 ジャパンタイムズ

科目名 クラス 講義区分	
上級英語W 01<春集>	
Kevin R. Gregg	2 単位

【講義概要】

This is a writing class.

【学習目標】

The object of the class is for you to improve your English writing skills (duh).

【講義計画】

- 第1回 writing
- 第2回 writing
- 第3回 writing
- 第4回 writing
- 第5回 writing
- 第6回 writing
- 第7回 writing
- 第8回 writing
- 第9回 writing
- 第10回 writing
- 第11回 writing
- 第12回 writing
- 第13回 writing
- 第14回 writing
- 第15回 writing
- 第16回 writing
- 第17回 writing
- 第18回 writing
- 第19回 writing
- 第20回 writing
- 第21回 writing
- 第22回 writing
- 第23回 writing
- 第24回 writing
- 第25回 writing
- 第26回 writing
- 第27回 writing
- 第28回 writing
- 第29回 writing
- 第30回 writing

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 50%

Attendance is, of course, mandatory; any student absent more than 6 times will not pass.

In addition to homework (reading and writing) and writing in class, each student will submit a 'term paper' (10+ pages, typed) at the end of the semester. The student will plan and discuss this paper with the instructor over the course of the semester.

【参考文献】

William Strunk Jr. & E.B. White, The elements of style; 50th anniversary edition

【備考】

・02~07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
上級英語W	02<秋集>	
上級英語W	03<秋集>	
Richard Leigh Harper	2単位	

【講義概要】

Students will practice writing in various styles including essays, reports, email, blogs and business letters.

【学習目標】

Students will develop their skills in selecting appropriate expressions, and constructing paragraphs. Students will develop their ability to present their opinions and support them with rational, persuasive argument.

【講義計画】

- 第1回 Course Introduction and Outline
- 第2回 Descriptive Writing
- 第3回 Descriptive Writing
- 第4回 Descriptive Writing
- 第5回 Descriptive Writing
- 第6回 Descriptive Writing
- 第7回 Descriptive Writing
- 第8回 Writing letters
- 第9回 Writing letters
- 第10回 Writing letters
- 第11回 Writing a Personal Narrative
- 第12回 Writing a Personal Narrative
- 第13回 Writing a Personal Narrative
- 第14回 Writing email
- 第15回 Writing email
- 第16回 Review/Report
- 第17回 Writing Narratives
- 第18回 Writing Narratives
- 第19回 Writing Narratives
- 第20回 Writing a Review
- 第21回 Writing a Review
- 第22回 Writing a Review
- 第23回 Writing to Compare and Contrast
- 第24回 Writing to Compare and Contrast
- 第25回 Writing to Compare and Contrast
- 第26回 Writing business letters
- 第27回 Writing business letters
- 第28回 Review
- 第29回 Final Test

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 30% 出席 40%
Attendance will also include marks for attitude and participation.

【教科書】

Cheryl Pavlik and Margaret Keenan Segal Interactions 1 : Writing McGraw Hill

【備考】

・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
商業科教育法 [4] <通期>		
沼田吉昭	4単位	

【講義概要】

現在の商業教育は、学習指導要領にある科目以外にも学校設定科目が多くあり、学習内容は以前に比べ広範囲に渡っている。各商業高校はそれぞれ独自のカリキュラムで授業を行っている。各商業高校が実施しているカリキュラムの内容や、コース制・総合選択性・総合学科制などについて講義し、資格取得として商業高校で受験している各種資格試験・検定の紹介もする。その後、商業科の各科目について具体的に解説する。商業科の科目については模擬授業、パソコン実習等をし、演習を通じて知識・技術を習得する。

【学習目標】

高等学校商業科教員を目指す学生を対象にした「高等学校教諭一種免許状(商業)」取得のための必修科目である。商業高校で授業を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。また商業科教員としての自覚と責任・教育者としての人間力を磨くことも目標とする。講義では、年間指導計画、学習指導案の作成、学習指導法、教材研究、授業で使用する資料・問題プリントの作成、模擬授業を行い実践的な指導をする。

【講義計画】

- 第1回 商業科のカリキュラム変遷
- 第2回 カリキュラム改定の手続き
- 第3回 学校設定科目
- 第4回 商業科科目解説①
- 第5回 商業科科目解説②
- 第6回 商業科科目解説③
- 第7回 商業科科目解説④
- 第8回 商業科科目解説⑤
- 第9回 教材研究・授業展開
- 第10回 学習指導案の作成
- 第11回 模擬授業①
- 第12回 模擬授業②
- 第13回 模擬授業③
- 第14回 模擬授業④
- 第15回 模擬授業⑤
- 第16回 大阪府(市)の商業高校の変遷
- 第17回 年間行事予定
- 第18回 商業科科目解説⑥パソコン(ワード)
- 第19回 商業科科目解説⑦パソコン(ワード)
- 第20回 商業商業科解説⑧パソコン(エクセル)
- 第21回 商業科科目解説⑨パソコン(エクセル)
- 第22回 商業科科目解説⑩パソコン(エクセル)
- 第23回 商業科科目解説⑪パソコン(アクセス)
- 第24回 商業科科目解説⑫パソコン(アクセス)
- 第25回 商業科科目解説⑬パソコン(Photoshop)
- 第26回 商業科科目解説⑭パソコン(Photoshop)
- 第27回 校務分掌
- 第28回 教職員の評価育成システム、教員研修
- 第29回 商業科教員の日常生活
- 第30回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 20% 出席 50%
主として、出席・課題の提出を重視し、厳しく評価する。なお、授業中に実施する模擬授業の実践面の評価を試験として評価する。レポート提出、出席等も勘案のうえ、総合評価とする。
テキスト等は、プリントで適宜配布する。

【備考】

【準備学習の指示】
文部科学省のホームページで公表されている高等学校学習指導要領(本文)(PDF695KB)の専門学科・商業の内容を一読し、新しい科目(20科目)の内容を確認しておくこと。

さ
行

科目名 クラス 講義区分			
商業簿記			
坂手恭介 朴手恭介 朴手大栄	01 <通期> 02 <通期> 03 <通期> 04 <通期>		4 単位

【講義概要】

今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

商業簿記3級は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

【学習目標】

2010年度日商簿記検定試験3級合格

（本講義では、日本商工会議所簿記検定3級を取得することを目的とします）

第125回 日商簿記検定試験3級対策：4～6月

第126回 日商簿記検定試験3級対策：6～11月

第127回 日商簿記検定試験3級対策：11～2月

【講義計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 簿記の目的・取引・仕訳

第3回 勘定口座への記入方法・試算表

第4回 商品売買の記帳方法

第5回 現金及び預金の記帳方法

第6回 手形の記帳方法（約束手形・為替手形・決済）

第7回 手形の記帳方法（割引・裏書）

第8回 その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）

第9回 クラス編成試験

第10回 訂正仕訳・主要簿及び補助簿

第11回 補助簿および伝票

第12回 クラス編成試験結果発表

第13回 決算・決算整理（売上原価の計算）

第14回 英米式決算法

第15回 精算表

第16回 その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）

第17回 その他の決算整理（有形固定資産の売却）

第18回 その他の決算整理（繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）

第19回 その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）

第20回 損益計算書・貸借対照表の作成

第21回 総まとめ講義No. 1

第22回 総まとめ講義No. 2

第23回 総まとめ講義No. 3

第24回 答案練習①

第25回 答案練習②

第26回 答案練習③

第27回 答案練習④

第28回 答案練習⑤

第29回 答案練習⑥

第30回 検定試験

【成績評価の方法】

単位修得条件：日商簿記検定試験3級合格（合格点70点）

日本商工会議所の簿記検定は、年三回（6月・11月・2月）に実施されています。なお、上記基準外の合格要件については初回の講義時に詳しく説明する。

【教科書】

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記テキスト

※第一回目から講義をおこないますので、必ずテキストを生協にて購入して受講してください。

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記ドリル

大原簿記学校 ALFA 3級商業簿記アンサー

【参考文献】

必要があれば、適宜指示します。

【備考】

【準備学習の指示】 前回の講義内容を復習し、特に練習問題を解いておくこと。

【注意】

- ・重要な連絡は、講義内および掲示板にて行いますので、どうしても欠席しなければならぬ場合は掲示板をよくみてください。
- ・また、上記連絡は、学校のメールアドレスにも配信しますので、携帯メールへの転送設定を怠らないようにしてください。
- ・10生対象

科目名 クラス 講義区分			
商業簿記			
河合隆治 坂井恭介 堀手暢介	05 <春集> 06 <春集> 07 <秋集> 08 <秋集>		4 単位

【講義概要】

今日の社会において企業の影響力が増大するにつれ、人々は自己の利益を守るために企業の動向に強い関心をもち、企業に関する情報を必要としています。そのような情報は多くの源泉から入手することができますが、企業活動の経済的側面についての最も優れた情報源泉は、企業の会計が生み出す財務諸表です。しかしこの財務諸表は、簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となります。

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について学習します。具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、(1)複式簿記の基礎概念、(2)諸取引の会計処理、(3)決算と財務諸表、の順に解説していきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

【学習目標】

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。この講義を終えることによって、日商簿記検定3級程度の複式簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を学習するための基礎が形成されます。

【講義計画】

第1回 簿記の基礎概念、資産・負債・純資産と貸借対照表、収益・費用と損益計算書

第2回 簿記上の取引

第3回 仕訳

第4回 勘定記入

第5回 帳簿と証ひょう

第6回 第1回から第5回までの復習（問題演習）

第7回 現金預金取引

第8回 商品売買取引（その1）

第9回 商品売買取引（その2）

第10回 売掛金・買掛金

第11回 その他の債権・債務

第12回 第7回から第11回までの復習（問題演習）

第13回 手形取引（その1）

第14回 手形取引（その2）

第15回 有価証券

第16回 固定資産

第17回 資本金と引出金、税金

第18回 第13回から第17回までの復習（問題演習）

第19回 決算と財務諸表（決算予備手続～試算表の作成）

第20回 決算と財務諸表（決算本手続～決算整理仕訳）

第21回 決算と財務諸表（決算本手続～振替仕訳）

第22回 決算と財務諸表（決算本手続～仕訳帳・総勘定元帳の締切、繰越試算表の作成）

第23回 決算と財務諸表（財務諸表の作成）

第24回 決算と財務諸表（精算表の作成）

第25回 第19回から第24回までの復習（問題演習）

第26回 総合問題演習（その1）

第27回 総合問題演習（その2）

第28回 総合問題演習（その3）

【成績評価の方法】

試験 100%

期末試験（100点満点）で評価します。

【教科書】

加古宜士・渡部裕吾・片山寛 新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社

【参考文献】

加古宜士・渡部裕吾・片山寛（編著）『新検定 簿記講義3級』中央経済社、2010年。

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）『現代簿記論』中央経済社、1992年。

その他の参考文献については、必要に応じて授業の中で指示します。

【備考】

【準備学習の指示】

商業簿記は積み重ねがとても重要な科目です。講義に臨むにあたり、前回までの内容（講師が適宜指示）をしっかりと復習してください。

・02～09生対象

科目名	クラス	講義区分
証券論 <春集>		
松尾 順介	4単位	

【講義概要】

この講義は、株式の基本、株式の発行市場と流通市場、信用取引やデリバティブまでを対象とする予定である。金融危機後、証券市場は急激な変化を経験しているため、最近の変化を踏まえつつ、証券および証券市場、さらには証券取引手法の基本を講義する。

【学習目標】

皆さんが上場企業に就職した場合、その会社は日々株式市場と直面し、敵対的買収に会うかもしれない。大企業だけでなくベンチャー起業家にとっても、証券市場は樹木の根のような不可欠な要素（資金調達手段）である。また、従業員も社員持ち株制度やストックオプション制度で、株式を持つことが多くなった。さらに、インターネット取引は、一般の人々の株式投資を身近なものにした。他方、フィナンシャルプランナーや税理士・会計士を目指す学生にとっても、証券市場の知識は必要不可欠である。そこで、この講義の目的は、株式市場を中心に、証券市場の基本的な制度やルール、さらにその実態の理解を深めることである。証券市場を「ずるがしこく儲ける所」と理解している人も多いが、実は「ルールのかたまり」であり、ルールを順守することで成り立っていることを理解してほしいと思っている。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
 第2回 第1章 株式の基礎1
 第3回 第1章 株式の基礎2
 第4回 第1章 株式の基礎3
 第5回 第1章 株式の基礎4
 第6回 第1章 株式の基礎5
 第7回 第2章 株式の持ち合いと企業買収1
 第8回 第2章 株式の持ち合いと企業買収II
 第9回 第2章 株式の持ち合いと企業買収3
 第10回 第3章 株式発行1
 第11回 第3章 株式発行2
 第12回 第3章 株式発行3
 第13回 第3章 株式発行4
 第14回 第4章 株式の流通1
 第15回 第4章 株式の流通2
 第16回 第5章 証券取引所の役割1
 第17回 第5章 証券取引所の役割2
 第18回 第5章 証券取引所の役割3
 第19回 第6章 株価指数と投資尺度
 第20回 第7章 信用取引1
 第21回 第7章 信用取引2
 第22回 第7章 信用取引3
 第23回 第8章 先物取引1
 第24回 第8章 先物取引2
 第25回 第8章 先物取引3
 第26回 第9章 オプション取引1
 第27回 第9章 オプション取引2
 第28回 第9章 オプション取引3

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 期末テストで評価する。ただし、毎回の質問状のうちよい質問状は期末評価に加点する。また、課題提出も加点対象とする。なお、出席点は一切考慮しない。

【教科書】

テキストは使用しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2006年版』日本証券経済研究所
 証券広報センター編『証券市場2010中央経済社
 東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
 川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
 川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社

【備考】

準備学習の指示：毎回の講義を受講するに際しては、前回の講義内容をよく復習して講義に臨む必要がある。具体的な準備学習は以下である。①この講義では、キーワードとなる専門用語が頻出するので、まずこれらの専門用語の意味や内容をしっかり頭に入れておくこと、②配布資料は、講義をより深く理解するためのものが数多く含まれているので、それらを自分で読み解き、理解を深めておくこと、③普段から証券市場に関するニュースや新聞記事に目を通し、関連する知識・情報を集めておくこと、などである。

科目名	クラス	講義区分
商取引法 <秋集>		
瀬谷 ゆり子	4単位	

【講義概要】

主に商法総則及び商行為法を対象とする。商法総則は主に個人企業組織に関する通則的な規定として、また商行為法は法人を含む企業取引に関する通則的な規定として位置づけられる。もともと本講義の対象とすべき範囲は広がっており、また直面する問題も多く、法規制の進展は著しい。したがって、そのような情報も、できるだけ折り込みたいと考えている。

【学習目標】

基幹科目としての民法を学んだ者が、この分野も学ぶことで、企業に特有のルールの必要性を認識し、かつその仕組みを理解することを目標とする。したがって、民法に関し総則の部分は履修済みであることが望ましく、契約の部分が履修済み(履修中)であれば、とりわけ商行為法の理解に有益である。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
 商取引法の履修に当たって
 第2回 民事法の世界 一取引法の世界一
 第3回 商法改正と法体系 商法の法的特性と傾向
 第4回 商法の法源
 第5回 商人概念 その1
 第6回 商人概念 その2
 第7回 商人適格と商人資格
 第8回 商号と商標
 第9回 商号の譲渡・相続・廃止・変更 名板貸し
 第10回 商業帳簿
 第11回 商業使用人
 第12回 商業登記制度 商業登記の効力
 第13回 営業譲渡 その1
 第14回 営業譲渡 その2
 第15回 商法総則まとめ
 第16回 企業取引法総論 商行為概念
 第17回 消費者取引、消費者契約法
 第18回 消費者売買 商事売買 その1
 第19回 商事売買 その2
 第20回 企業取引の補助者 代理商・仲立人・問屋
 第21回 他人を利用した取引
 第22回 運送営業 倉庫営業
 第23回 場屋営業
 第24回 金融取引その1
 第25回 金融取引その2
 第26回 証券取引
 第27回 保険取引
 第28回 商取引 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100%
 期間内に数回行うクイズは、加点要素として用いる。

【教科書】

落合誠一他 商法 I 一総則・商行為 有斐閣

【参考文献】

最新の六法を用意すること。
 その他、授業中に指示する。

【備考】

[事前学習等の指示]
 民法との関係が問題となる分野であるため、債権法の復習をしておくこと。
 なお、授業の進行に合わせて、資格試験等で出題された過去問題を適宜配布する。理解を確認する意味で自分で解いてみること。
 ・02~07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
情報機器論 <春>	
桐山和彦	2単位

【講義概要】

現代社会において、情報機器と無縁であることはありえない。携帯電話・端末からスーパーコンピュータに至るまで、あらゆる情報機器はネットワークにつながれ、人々は忙しくその処理に追われている。電子情報技術の急速な進歩によって、これらの情報機器は日々その種類や形を変えて製品化され、実・仮想店舗を問わず膨大な量の情報アイテムが商品として展示されている。我々は状況に応じて氾濫するこれらの情報機器を適切に取捨選択し、効率的に仕事を必要とする。そのためには、その背景となるネットワーク社会と、それを支える基本的な技術を理解すると同時に、各パーツの使用用途とシステムの概要を学ぶ必要がある。本講義ではまず、現代社会における情報機器の置かれた現状を概観し、コンピュータシステムの概要、携帯端末からインターネットサーバに至るネットワークシステムについて述べると共に、実際にコンテンツ管理システムを用いてインターネット上で情報発信する仕組みについて理解できるように工夫した。

【学習目標】

本講義は、将来ビジネス現場において各種情報機器を使いこなす上で必要なリテラシーを習得し、主体的に情報発信できることを目標としている。このため、コンピュータシステムやインターネットの概要等の講義と共に、実際にコンテンツ管理システムを利用して、Web上に自身のブログ等を書いて情報発信する実習時間を設けている。これによって、より実践的な情報機器利用技術の習得を図ることができる。

【講義計画】

- 第1回 現代社会における情報機器とは
- 第2回 コンピュータシステムの概要
- 第3回 コンピュータ周辺機器の概要
- 第4回 携帯端末と無線通信システムについて
- 第5回 サーバとその機能
- 第6回 インターネットの概要
- 第7回 各種プロトコルについて
- 第8回 コンテンツ管理システムについて
- 第9回 CMS実習I-Radiant入門ー
- 第10回 CMS実習II-スタイルシートを作るー
- 第11回 CMS実習III-Webページのカスタマイズー
- 第12回 オペレーティングシステムについて
- 第13回 スクリプト言語実習-動的1Webページの作成ー
- 第14回 データベースシステムについて
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 0% 出席 30%
出席における考慮は 4 回の実習を行ったかどうかで判断する。

【参考文献】

- [1] 鈴木 雄介：クラウドの可能性と課題。UNIX magazine 106-111 24 2 4。アスキーメディアワークス(2009)
- [2] 宮原 秀夫, 尾家 祐二：コンピュータネットワーク。1, 森北出版, ISBN 4-627-80590-X(1992)
- [3] WIDE Project：1995年版 インターネット参加の手引。bit別冊 18-21 8月号。共立出版(1995)
- [4] Andrew S. Tanenbaum(水野 忠則 他訳)：Computer Networks。4, 日経BP社, ISBN 4-8222-2106-7 (2003)

科目名 クラス 講義区分	
情報検索演習 01<春>	
都築 泉	2単位

【講義概要】

図書館の利用者に対するサービスとして、オンライン・オンディスクのデータベースの提供は、現在、大変重要なものとなっている。データベースを利用して種々の情報を引き出す業務を担当する専門家はサーチャー（インフォメーション・スペシャリスト）と呼ばれ、大学図書館・公共図書館・企業内図書館などで活躍している。一方、図書館の役割としては、情報管理者としての立場から利用者が利用しやすい環境を整備することが求められている。また、図書館のみならず、情報検索は、図書館・企業・各種公共団体において必須の業務となっている。この講義では、社会に出てからも必要とされるこのような情報管理・情報検索の基礎知識に関わる内容を概説し、関連の資格である情報検索基礎能力試験への合格に関わる内容を、いくつかのデータベース検索の実例と共に学習する。

【学習目標】

情報検索の技能が重要視されている現在、その技能や知識の取得を証明するものとして、情報科学技術協会(INFOSTA)が情報検索能力試験が存在する。この科目では、1級と2級の上級サーチャーの前段階としての情報検索基礎能力試験((社)情報科学技術協会が行う)を目標において、実践を交えながら学習し、この試験への合格レベルを習得することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス、情報検索能力試験について
- 第2回 情報の生産と流通、情報管理
- 第3回 情報検索の基本1-主題分析、一次情報と二次情報
- 第4回 情報検索の基本2
- 第5回 情報検索とコンピュータ・インターネット
- 第6回 情報検索の実際I
- 第7回 情報利用の問題点
- 第8回 情報検索の実際II
- 第9回 情報の組織化
- 第10回 データベースの歴史、種類等
- 第11回 情報検索の実際III
- 第12回 調査結果のまとめと活用I
- 第13回 調査結果のまとめと活用II
- 第14回 総合復習

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20% 出席 0%
3回程度の小テストとレポートにより評価する。

【教科書】

原田智子、岸田和明、小山憲司 情報検索の基礎知識 新訂版 2,000円 情報科学技術協会

【参考文献】

- 1. 「情報検索の知識と技術」(情報科学技術協会) 2500円、著者： 時実象一、小野寺夏生、都築泉 ISBN： 978-4-88951-045-4
- 2. 「資料・メディア総論 第2版」(学芸図書) 2,310円、著者： 志保田務・山本順一監修著 ISBN978-4-7616-0397-7 2007年11月25日第2版発行 (初版発行/2001年6月22日)

【備考】

【準備学習の指示】

当講義の受講には、第1回の講義までに次の条件を満たしておくこと。

- 1. パソコンキーボードの操作・入力ができること。
- 2. 学内LAN経由でインターネットに接続できること。
- 3. E-mailアドレスを取得し、メールの送受信ができるようにしておくこと(学内LANのそれでもよい; 携帯メールは対象外)。

科目名 クラス 講義区分	
情報検索演習 02<秋>	
藤野 寛之	1単位

【講義概要】

データベースの概要ならびに情報検索の基礎を踏まえたいうで、演習を通じて検索方法の実践的な能力の養成を図る。

【学習目標】

情報サービスの提供において必要な「情報を探す力」を身に付けることを目標とする。特に、コンピュータやデジタル情報資源を対象とする情報検索の実践について演習し、情報検索技術や能力を習得する。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：情報とは、データベースとは
- 第2回 データベースの基礎知識(1)
- 第3回 データベースの基礎知識(2)
- 第4回 情報検索の基礎知識(1)
- 第5回 情報検索の基礎知識(2)
- 第6回 データベースの作成と検索
- 第7回 インターネットの検索(1)
- 第8回 インターネットの検索(2)
- 第9回 シソーラスの活用
- 第10回 図書情報の検索(1)
- 第11回 図書情報の検索(2)
- 第12回 新聞・雑誌記事情報の検索(1)
- 第13回 新聞・雑誌記事情報の検索(2)
- 第14回 商業データベースの活用
- 第15回 授業の総括(要点の確認)

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 40% 出席 20%
出席状況、演習課題ならびに確認テストなどを総合して評価する。

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

松本勝久『情報検索入門ハンドブック』(勉誠出版 2008年 8月)
伊藤民雄ほか『インターネットで文献探索：2007年版』(日本図書館協会 2007年 6月)

【備考】

【準備学習の指示】

専門用語、技術などに関するキーワードがたくさん出てくるので、関連する用語辞典をこまめに引くこと。授業の予習・復習(特に復習)のほか、授業で随時紹介する文献についても目を通すこと。

科目名 クラス 講義区分	
情報検索論 A <春>	
山本 順一	2単位

【講義概要】

インターネットが生み出した情報空間、サイバースペースには玉石混淆の数十億にのぼるウェブページが存在するのみならず、伝統的なパッケージ型情報資源のゲートウェイとしても機能している。このような不可視の膨大で多種多様な情報の大海原から求める情報を釣り上げるために不可欠のツールがサーチエンジンである。本講義では、このサーチエンジンについて多角的な検討を行いたい。

【学習目標】

PCやケータイで情報検索をする際日常的に利用しているサーチエンジンについての理論の基礎的理解と基本的スキルを身につけていただくことがこの科目の学習目標である。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 サーチエンジンの歴史
- 第3回 サーチエンジンの機能と役割
- 第4回 サーチエンジン・リテラシー
- 第5回 サーチエンジンと社会
- 第6回 ページランク
- 第7回 サーチエンジンが生み出す‘生態系’
- 第8回 ネット・デモクラシーの神話
- 第9回 ネット社会と熟議民主主義の創出
- 第10回 ゲートキーパーとキーマスター
- 第11回 知的財産保護と情報共有
- 第12回 ネット・プライバシー、デジタル人権
- 第13回 ソーシャル・サーチ
- 第14回 情報検索 2.0、3.0
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%
学期末試験のほか、具体的なテーマにつき、授業でとりあげたサーチエンジン等の活用能力を確認するレポート提出を課する。

【教科書】

アレクサンダー・ハラヴェ ネット検索革命 青土社

【備考】

準備学習の指示等： 事前にテキストの関係部分を予習してから受講すること。

・02～07生は読替一覧参照

さ
行

科目名 クラス 講義区分	
情報検索論B <秋>	
山本 順一	2単位

【講義概要】

今日、わたしたちが特定の情報を必要とする場合、咄嗟のときにはケータイで検索するであろうし、論文やレポート、企画書をまとめなければならないときには、インターネットを含むデジタル情報を検索し、さらには冊子体にあたり、その筋の専門家、専門機関に照会することになる。この一連の求める情報へのアクセスに関する理論を学び、関連する一定のスキルを身につけるのがこの科目の内容とするところであり、ねらいでもある。

【学習目標】

情報検索の歴史と理論についての基礎的理解を得るとともに、生涯学習者として一般に利用されるデータベースの利用技術を身につけていただくことがこの科目の学習目標である。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 情報検索の過去・現在・未来
- 第3回 デジタル・ネットワーク環境における情報組織化
- 第4回 情報検索と情報探索行動
- 第5回 Web検索の原理と動向
- 第6回 図書館OPACの発展動向
- 第7回 日本における科学技術系データベース検索
- 第8回 Web情報検索のスキル
- 第9回 デジタル・レファレンスサービス
- 第10回 情報サービス人材の育成
- 第11回 いまひとつのインターネットの世界
- 第12回 ケータイ検索
- 第13回 デジタルコンテンツの著作権Ⅰ
- 第14回 デジタルコンテンツの著作権Ⅱ
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%

学期末試験のほか、具体的なテーマにつき、授業でとりあげた文献情報データベースの活用能力を確認するレポート提出を課する。

【教科書】

日本図書館情報学会研究委員会編 情報アクセスの新たな展開 勉誠出版

【備考】

準備学習の指示等： 事前にテキストの関係部分を予習してから受講すること。

・02～07生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
情報サービス演習 <秋>	
谷本 達哉	1単位

【講義概要】

図書館には、わたしたちが求めるあらゆる情報に対応するために準備されているサービスがあります、それが情報サービス（レファレンスサービス）です。この科目では、講義科目「情報サービス概説」の理論を基本に、必要とする情報（質問）を図書館の情報資源（レファレンスツール）を活用して検索・提供（回答）する実践的な手法について学びます。

【学習目標】

図書館のレファレンスツール（情報資源）を活用して利用者の質問（情報ニーズ）に対応する回答（情報）を検索する。演習形式の授業を通して、その具体的な方法について触れ、同時に図書館の情報サービス（レファレンスサービス）の実際を捉えることを目指します。

【講義計画】

- 第1回 情報サービス（レファレンスサービス）の実際について、次のような内容について学びます。
○情報サービス（レファレンスサービス）入門
- 第2回 ○情報サービス、レファレンスクエストとその対応
- 第3回 ○情報サービス、質問の検索と回答
- 第4回 ○情報源・レファレンスツールとその種類①
- 第5回 ○情報源・レファレンスツールとその種類②
- 第6回 ○情報サービス演習①：文字・言語に関する質問
- 第7回 ○情報サービス演習②：事物に関する質問
- 第8回 ○情報サービス演習③：歴史・時事に関する質問
- 第9回 ○情報サービス演習④：地理・地名に関する質問
- 第10回 ○情報サービス演習⑤：人物・団体に関する質問
- 第11回 ○情報サービス演習⑥：著作・図書に関する質問
- 第12回 ○情報サービス演習⑦：逐次刊行物に関する質問
- 第13回 ○情報サービス演習⑧：総合演習
- 第14回 ○事例：レファレンスブックの解題評価、パスファインダーの意義
- 第15回 ○まとめ

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題・演習、出席や受講態度を重視します。

また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的で熱心な姿勢を求めます。

なお、できる限り、講義科目の「情報サービス概説」の履修を済ませてからの受講が望ましいです。

【教科書】

西田文男監修 情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書

講義科目「情報サービス概説」と同一テキスト

【備考】

この科目は、講義科目「情報サービス概説<春>」の履修を済ませてからの受講することが望ましい。

科目名	クラス	講義区分
情報サービス概説 <春>		
谷本達哉	2単位	

【講義概要】

社会の中に溢れる情報、いま、わたしたちには、自分が求める情報を迅速かつ確に入手するための手立てが必要です。この授業では、情報センターとしての図書館が提供する“パブリックな（わたしたちの）情報入手のための手段としての「情報サービス」”について考えます。

【学習目標】

授業（講義全体）を通じて、図書館のサービスとしての「情報サービス」に関する総合的な内容と基礎的な活用方法について学び、その重要性について理解することを目指します。

【講義計画】

- 第1回 図書館の情報サービスについて、以下のような事柄について解説します。
○科目オリエンテーション
- 第2回 ○図書館の情報サービスとは何か（はじめに）
- 第3回 ○図書館で“知りたいものを探す”、そのための基礎
- 第4回 ○情報サービス、調べものサービスの手法①：RFクエスチョン
- 第5回 ○情報サービス、調べものサービスの手法②：RFプロセス
- 第6回 ○情報サービス、調べものサービスの種類①：情報提供、基本的なサービス①
- 第7回 ○情報サービス、調べものサービスの種類②：情報提供、基本的なサービス②
- 第8回 ○情報サービス、調べものサービスの種類③：情報提供、その展開的サービス
- 第9回 ○調べもの探し：情報サービス簡単演習
- 第10回 ○情報サービス、調べものサービスの道具：（レファレンスツール）①
- 第11回 ○情報サービス、調べものサービスの道具：（レファレンスツール）②
- 第12回 ○情報サービス各論① レファレンスコレクション：その選択・収集・組織化
- 第13回 ○情報サービス各論② 情報サービスの管理：組織・体制
- 第14回 ○情報サービス各論③ 情報サービスの理論
- 第15回 ○まとめ（おわりに）

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します（毎回出欠の確認を行います）。
司書課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

西田文男監修 情報サービス：概説とレファレンスサービス演習・第3版 学芸図書
演習科目「情報サービス演習」と同一テキスト

【備考】

この科目は、演習科目である「情報サービス演習<秋>」を履修する前に受講することが望ましい。

科目名	クラス	講義区分
情報システム論 <通期>		
芦田昌也	4単位	

【講義概要】

社会や経済活動の基盤設備から個人の情報活用ツールに至るまで、情報システムは私たちの生活に深く入り込んでいる。この講義では、こうした情報システムを、人・情報・コミュニケーション・ネットワーク・社会などとの関連で捉えていきたい。

前期は、人と情報、コミュニケーションとネットワークなどについて理解を深め、情報システムを構成する要素技術について解説する。後期は、情報システムに関する基礎的な知識と社会での活用形態や開発方法などに関して講義する。また、情報システムの利用者として身につけるべき情報セキュリティや倫理についても解説する。

【学習目標】

情報システムに関する基礎的な知識と、情報システムをとりまくさまざまな技術について理解することが少なくとも必要である。標準的には、それらの理解に加え、社会や企業における情報システムの活用事例やその変遷について理解することが求められる。最終的には、これらの知識や理解に基づいて、人や社会との関わりという観点から情報システムについて議論できるようになることが望ましい。

【講義計画】

- 第1回 情報と人間
- 第2回 情報とコミュニケーション
- 第3回 コミュニケーションモデル
- 第4回 コミュニケーションと理解
- 第5回 コンピュータシステム
- 第6回 ユーザインタフェースの基礎概念
- 第7回 情報とネットワーク
- 第8回 情報通信と情報のデジタル化
- 第9回 情報通信の仮想化と階層化
- 第10回 コミュニケーションモデルと通信プロトコル
- 第11回 情報ネットワークの仕組み
- 第12回 インターネットを支える仕組み
- 第13回 インターネットのアプリケーション
- 第14回 インターネットの検索システム
- 第15回 情報システム
- 第16回 情報システムの評価
- 第17回 企業活動と情報システム
- 第18回 企業情報システムの事例
- 第19回 企業情報システムの変遷
- 第20回 社会基盤としての情報システム
- 第21回 情報システムの課題
- 第22回 情報システム技術の将来
- 第23回 情報セキュリティ
- 第24回 暗号化技術
- 第25回 情報セキュリティの課題と対策
- 第26回 情報社会
- 第27回 情報社会におけるコミュニケーション
- 第28回 情報システムと社会の変遷

【成績評価の方法】

試験 60% レポート 20% 出席 20%
前期終了時に実施する中間試験の成績、後期終了時に実施する期末試験の成績、出席状況の調査を兼ねた毎回の簡単なレポートならびに受講態度により総合的に評価する。

【教科書】

川合 慧 監修・駒谷昇一 編著 情報と社会 オーム社

【参考文献】

神沼 靖子 編著「情報システム基礎」オーム社
川合 慧 監修・河村一樹 編著「情報とコンピューティング」オーム社

【備考】

【準備学習の指示】

毎回の授業のはじめには前回の授業内容を概観するので、そのときまでに教科書の該当箇所（前回の授業内容に対応する箇所）に目を通しておくこと。

授業はほぼ教科書の記載順に進めるので、上記の学習の際に、次の授業内容に対応する箇所を目を通すことができればなおよい。

科目名 クラス 講義区分	
情報社会論 <秋集>	
木 島 由 晶	4単位

【講義概要】

正確には近年、ICTs (Information and Communication Technologies) と呼ばれる、情報通信技術と社会との関わりを多面的に考察していく。内容は2つに大別できる。第一は、人間とコンピュータとのインタラクション、第二は、それを介した人と人とのコミュニケーションである。また、講義内容を7回ごとに、①前半戦：「情報社会の100年」、②中盤戦A：「コンピュータ/ゲーム編」、③中盤戦B：「ネットワーク/ケータイ編」、④終盤戦：「情報社会の現在」の、4つのセクションに大別し、前回の内容をふまえながら、段階的に理解を深めていきたい。

【学習目標】

情報通信技術の恩恵にあずからない人は、まずいないだろう。アフリカの片田舎にもケータイ電話が普及している昨今である。しかもそれはほんの短い時間に達成されてきたから、私たちはつい、何かものすごい「革命」が立て続けに起こっているのだと期待してしまう。しかし、それで一喜一憂しているようでは大学生として心もとない。そこでこの授業では、すぐに判断をくだしたくなる気持ちをぐっとこらえ、まずは、現象をじっくりと眺める「観照」の姿勢を滋養したい。新しいものがすぐに古びて見えるこの世の中で、落ち着いて考える力をはぐくむこと。それはもちろん、時流に流されずに生きていく力を育むことでもある。

【講義計画】

- 第1回 総合オリエンテーション
- 第2回 テクノとソシオのメディア論
- 第3回 20世紀とモダニティのゆらぎ
- 第4回 近代的権力の変容
- 第5回 全体性 (totality) の弱体化
- 第6回 監視とセキュリティの侵食
- 第7回 情報社会とアーキテクチャ
- 第8回 コンピュータの技術/社会史
- 第9回 テレビゲームの2つの波
- 第10回 コンピュータとしての「ファミコン」
- 第11回 RPGの進展と図鑑型の知
- 第12回 ゲームセンターから複合施設へ
- 第13回 技の攻略からデータの管理へ
- 第14回 やり込みと作り込みの相克
- 第15回 ウェブ0.5
- 第16回 ケータイ0.5
- 第17回 インターネットの功罪
- 第18回 ケータイ世代とトモダチの境界
- 第19回 関係と自己の消費社会的変容
- 第20回 ケータイ派/PC派のライフチャンス
- 第21回 ウェブ日記とセルフアイデンティティ
- 第22回 ゲームとツールが出会うとき
- 第23回 n次創作のオリジナリティ
- 第24回 ブログからマイクロブログへ
- 第25回 「2ちゃんねる」と「ニコ動」の文化
- 第26回 モニターの中の暮らし
- 第27回 キャラクターとの恋愛
- 第28回 クロージング・トーク

【成績評価の方法】

試験 100%
 期末試験の評価を基本とする。詳細は第1回目の講義日に示す。

【教科書】

教科書の代わりに、毎回プリントを配布する。なお、原則としてプリントは再配布しない。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

【備考】

【事前学習の指示】

詳細は講義中に指示するが、情報社会への理解を深めるために予習・復習に努めること。

・02～09生は読替一覧参照

科目名 クラス 講義区分	
情報組織論A <春>	
牧 野 丹 奈 子	2単位

【講義概要】

情報化社会の今日、企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし、画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。

では、どのような組織ならば、新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。

本講義では、このような問題に対して、企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組んでいく。

つまりこの講義では、“情報化社会では、どのような組織が成功するのか”を、システム論や事例研究を用いながら学習することになる。

【学習目標】

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。抽象的なことばも、具体的にイメージできるようになってほしい。

この講義では、毎時間の最後に用紙を配り、各自が考察したことや感想を書いてもらう。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション (注意事項と基礎知識)
- 第2回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か (多様性)
- 第3回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か (多面的な視点)
- 第4回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か (効率的な情報処理と組織その1)
- 第5回 情報化社会で企業に必要な能力とは何か (効率的な情報処理と組織その2)
- 第6回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か (情報と権限)
- 第7回 情報化社会で個人に必要な能力とは何か (やる気)
- 第8回 組織をどのようにとらえるか (5つの組織論)
- 第9回 組織をどのようにとらえるか (社会システムの特徴)
- 第10回 組織をどのようにとらえるか (職場と会社)
- 第11回 日本人と「行為空間」
- 第12回 信頼の重要性
- 第13回 情報と物質とのちがいがい
- 第14回 総復習
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
 原則的に試験により評価するが、授業態度・レポート等を加味することがある。

【教科書】

牧野丹奈子 経営の自己組織化論 日本評論社

【備考】

<準備学習の指示>毎回、プリント配布などにより、準備学習の指示をします。

・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
情報組織論B <秋>		
牧野 丹奈子	2単位	

【講義概要】

最近、「現場力」ということばをよく聞く。現場の力は企業経営の大きな強みである。特に情報化社会においては、現場をうまくマネジメントすることが企業経営の重要な課題となる。ところが現実をみても、現場が計画通りにいかないことが多い。なぜ、現場は計画通りにいかないのか。これは全ての現場が抱える大きな問題である。

本講義では、現場で働く個人の視点に立って、この現場の問題を考えてみる。さまざまな企業事例やシステム論を交えながら、実際に現場で働く人の身になって学習していく。

【学習目標】

毎時間、「聴く」だけでなく、「考える」講義を目指したい。抽象的なことばも、具体的にイメージできるようにしてほしい。

この講義では、毎時間の最後に用紙を配り、各自が考察したことや感想を書いてもらう。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（注意事項と基礎知識）
- 第2回 現場と現場力
- 第3回 現場とやる気
- 第4回 計画と行為の乖離（その1）
- 第5回 計画と行為の乖離（その2）
- 第6回 ケーススタディ（その1）
- 第7回 ケーススタディ（その2）
- 第8回 行為と認知（その1）
- 第9回 行為と認知（その2）
- 第10回 身体と意味
- 第11回 ケーススタディ（その3）
- 第12回 身体行為と知識創発
- 第13回 企業の社会性と労働の社会性
- 第14回 ケーススタディ（その4）
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
原則的に試験により評価するが、授業態度・レポート等を加味することがある。

【教科書】

牧野丹奈子 現場視点の経営学 晃洋書房

【参考文献】

適宜指示します

【備考】

<準備学習の指示>毎回、プリント配布などにより、準備学習の指示をします。

・02～07生は読替一覧参照

科目名	クラス	講義区分
情報と職業 <通期>		
小林 利臣	4単位	

【講義概要】

情報システムの進展によって、社会・ビジネスの「あり方・ありよう」は大きく変化している。変化する情報化社会で生きていくためには、変化の本質、今後どう変化していくかを理解できなければならない。

第1部（情報システムの進展による社会の変化、第1回～第4回）では、コンピュータ・情報システムの進展、およびインターネットの出現を背景に、「社会がどう変化し」、「情報に関わる職業がどう変化しつつあるのか」を学ぶ。

第2部（情報ビジネスと職業、第5回～第20回）では、さらに詳しく企業における情報システムの活用、およびビジネスモデルの変化を調べ、「情報に関わる職業にはどんな職種があるのか」、企業に就職した場合「情報システム利用者として情報とどういう関わりをするのか」を学ぶ。

第3部（職業としての情報教育、第21回～第22回）では、教科「情報」を教えることを考えている人のために、教科「情報」の概要・授業計画を調べ、「教科「情報」教育者としての心構え」を学ぶ。

第4部（情報化社会と個人、第23回～第30回）では、企業における組織と個人の関係、および情報化社会における法制度などを学び、「情報関連分野における職業観」を涵養する。

情報に関わる職業につき、仕事していくには、単に「情報に関する知識」を身に付けるだけでは不十分であり、「情報に関する考え方」を身に付ける必要がある。本講義では「考える」こと身に付けたいと考える人向けに構成している。

【学習目標】

教科「情報」を教えることを考えている人、および情報に関わる職業につくことを考えている人を対象に

- 情報システムとはなにか
- 企業における情報システムの活用
- ビジネスモデルとそれを支える情報システム
- 情報関連分野における職業観（法律、資格、倫理なども含む）を理解してもらうことを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 情報システムとは
- 第2回 情報システムの進展
- 第3回 インターネットの出現とその影響（1）
- 第4回 インターネットの出現とその影響（2）
- 第5回 企業における情報システムの活用－基幹システム（1）
- 第6回 企業における情報システムの活用－基幹システム（2）
- 第7回 企業における情報システムの活用－情報システム導入の考え方
- 第8回 企業における情報システムの活用－情報系システム
- 第9回 企業情報システムの新しい方向－EC
- 第10回 企業情報システムの新しい方向－SCM
- 第11回 企業情報システムの新しい方向－企業経営へのインパクト
- 第12回 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルとは
- 第13回 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルの研究（1）
- 第14回 新しいビジネスモデル－ビジネスモデルの研究（2）
- 第15回 中間試験
- 第16回 情報関連の職業－新しい職種の出現
- 第17回 情報関連の職業－雇用形態の多様化
- 第18回 情報関連の職業－企業研究演習
- 第19回 情報管理技術－情報技術
- 第20回 情報管理技術－管理技術
- 第21回 教科「情報」の概要
- 第22回 教員としての心構え
- 第23回 企業における会社と組織と個人の関係
- 第24回 情報化社会での生き甲斐
- 第25回 就職活動と情報
- 第26回 法律と情報倫理（1）
- 第27回 法律と情報倫理（2）
- 第28回 これからの情報化社会
- 第29回 総合演習
- 第30回 期末試験・まとめ

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 70% 出席 0%

講義時の課題レポートおよび中間試験・期末試験（ともにノートのみ持ち込み可）で、評価する。

上記比率配分は目安です。詳細は講義内で説明します。

【教科書】

特になし。毎回講義時に資料を配布する。

【参考文献】

近藤勲編著：情報と職業、丸善(2002)

澁澤健太郎他著：情報教育のための基礎知識、NTT出版(2003)

【備考】

【準備学習の指示】

事前履修科目として、コンピュータ利用Ⅰを履修しておくことよ

い。関連科目として、情報システム論、経済情報処理論を併せて履修することが望ましい。

科目名 クラス 講義区分

職業指導 <通期>

植 田 勝 美

4 単位

【講義概要】

職業を選ぶということは、自分の人生を選ぶことでもある。近年、学校を卒業しても進学をしない、就職もしない。また、離職して次の就職先が見つからなかったりして、アルバイトとして働いている若者がふえている。それぞれの家庭にも課題があると考えられるが、中学校・高等学校での教育や進路指導のあり方にもさまざまな要因があるのではないだろうか。この講義では、職業指導の現状や問題点などをあげて、学校における適切な進路指導や「仕事」そのものについても考察していく。また、職業指導を行うための基礎的な知識・技術の修得も目標とする。なお、この科目は高等学校の商業・工業などの実業科目の教員免許取得に必要な科目でもあることから、「教員」の様々な仕事（公務分掌、部活動指導等）にも触れ、現代の教員の実情についても講義する。

【学習目標】

勤労観・職業観などの育成をめざすと共に、自分自身の今後の人生についても、さまざまな角度から真摯に考えることができるような人物の育成が目標である。

【講義計画】

- 第1回 「教員」の仕事について
- 第2回 「教員」の仕事について
- 第3回 「教員」の仕事について
- 第4回 「教員」の仕事について
- 第5回 職業指導と進路指導
- 第6回 職業指導と進路指導
- 第7回 職業指導と進路指導
- 第8回 職業指導と進路指導
- 第9回 学校現場における進路指導
- 第10回 学校現場における進路指導
- 第11回 学校現場における進路指導
- 第12回 学校現場における進路指導
- 第13回 人生と進路の選択
- 第14回 人生と進路の選択
- 第15回 人生と進路の選択
- 第16回 人生と進路の選択
- 第17回 人生と進路の選択
- 第18回 産業社会と職業構造
- 第19回 産業社会と職業構造
- 第20回 産業社会と職業構造
- 第21回 産業社会と職業構造
- 第22回 勤労観・職業観形成の支援
- 第23回 勤労観・職業観形成の支援
- 第24回 勤労観・職業観形成の支援
- 第25回 勤労観・職業観形成の支援
- 第26回 進路指導の課題と展望
- 第27回 進路指導の課題と展望
- 第28回 進路指導の課題と展望

【成績評価の方法】

・講義中に課すショートレポート（※年間約10回・期日厳守）、出席状況等で総合的に評価する。ただし、全講義回数の5割以上の欠席は評価対象外とする。

【教科書】

特になし。必要に応じて講義時に資料を配布する。

【参考文献】

仙崎武他編「入門 進路指導・相談」福村出版

小竹正美他著「進路指導の理論と実践」日本文化科学社

【備考】

【準備学習の指示】

自分自身が本学に入学する経緯についてまとめておく。